

全百
書科
漁
獵
篇

上

013
2121
福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
	記	門
	部	部
	項	項
	目	次
全	冊ノ内第	冊
分類 番號	第	號

T1A1

46

N83

圖書 和図書 遡



a 1 3 8 0 3 2 6 5 9 2 a

福岡教育大学蔵書

百科全書

漁獵篇上目録

食魚ヲ捕ル事

鮭魚ヲ捕ル事

魚類ヲ繁殖セシムル事

青魚ヲ捕ル事

ヒルチャル¹上魚ヲ捕ル事

鯰魚ヲ捕ル事

白肉ノ魚類ヲ捕ル事

目録

文部省

明治七年五月

定價三拾六錢

百科全書 漁獵編

文部省

扁魚ヲ捕ル事

青花魚ヲ捕ル事

介蟲ヲ捕ル事

魚商ノ愈設盛ナル前兆ノ事

漁獵篇下目錄

油用魚類ノ總論

鯨魚ノ事

スペルム、ウェール鯨ヲ捕ル事

鯨獵ノ縁起并ニ其進歩ヲ論ズ

ダウイス、ストリートノ鯨獵ヲ論ズ

海豹ヲ捕ル事

油用ノ雜魚

目錄終

目錄

二 大那首

百科全書

漁獵篇上

錦織精之進 譯

小引

英國諸海ニ放テ漁獵ノ行ハル、ハ一大盛事ニ
 シテ凡ソ海岸到ル處其住民皆漁獵ヲ以テ生計ト
 為ザル者無ク而ノ博物學者經濟家ノ如キモ此
 ニ由リテ遂ニ已ラ利スルアリ乃チ博物學者ハ普
 ク魚ノ諸種ヲ檢閲シテ其品質如何ヲ詳ラカニ
 シ其食料トスベキモイヲ分チ其何レノ水中ニ

住スルヲ察シ且漁獵ノ好時節ヲ知ルヲ得可
ク經濟家ハ漁獵ノ簡易ニシテ最益アル工夫ヲ
發明シ此ニ曰リテ容易ク水中無盡ノ產物ヲ漁
シ廉價ヲ以テ之ヲ販リ國內一般ニ美味ヲ食セ
シムルニ至レリ是則人ノ生命ヲ滋養スル本原
ト謂フベシ然レモ世間漁獵ノ景況ヲ了解スル
者猶未多カラズ故ニ今爰ニ說示ス但此篇措數
ニ定限アレバ特ニ其梗概ヲ掲グルノミ讀者之
ヲ諒セヨ

英國ノ漁獵ハ各其目的ヲ異ニスルヲ以テ其社

中自ニ類ニ分レ一ハ食ニ供スル魚類ヲ捕ヘ一
ハ油ニ製スル魚類ヲ獲ル然レモ食魚ヲ捕ルノ
較盛ナルヲ以テ今此書ニ說ク所ハ食魚ノ事ヲ
先ニシ而メ鯨魚海豹ノ如キ油魚ノ事ニ至リテ
ハ之ヲ下篇ニ書ス

食魚ヲ捕ル事

凡水ノ淺深流ノ緩急ニ拘ラス魚アラバ之ヲ漁
シテ人民ノ食料ニ供スルハ最緊要ノ事ナリ故
ニ世ニ漁獵ナキ片ハ常ニ廉價ヲ以テ人ノ生命
ヲ滋養スベキ食料ヲ得ルヲ能ハズ且海岸河畔

百利全書
ニ住スル漁人等ハ他ニ産業ノ其口ヲ餬スベキ
無シ蓋英國ノ四邊海ニ接シテ魚類ノ饒多ナル
ハ即天ヨリ産魚府ヲ賦セルノ理ニシテ若國人
之ヲ漁シテ其食料ニ供セザルキハ天賦ヲ辞ス
ルニ似タリ然ルニ輓近マデ漁獵ノ國內一般ニ
裨益アルヲ知ラズシテ其業ノ殷盛ナラザルハ
富國學者ノ常ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナリ夫漁獵
ヲ以テ生産ヲ立ツルハ近世ニ出ヅルト雖魚類
ヲ以テ食料トスルハ遠ク太古ニ始マレリ然レ
モ當時ノ漁獵ハ生産ノ為ニトズシテ獨自己ノ

食料ニ供スルノミナレバ具工夫ノ粗ナルハ固
ヨリ論ヲ俟タスト雖漸々開化ノ進歩スルニ從
ヒ其工夫モ亦愈精巧ヲ加ヘテ遂ニ小艇ヲ連子
網羅ヲ張ルヲ發明シ以テ大ニ魚類ヲ捕ヘテ
國內一般ノ食料ニ供スルニ足リ一大商法ト為
ルニ至レリ輓近愈其業ヲ盛大ナランメントシ
テ未幾クナラザルニ大ナル漁商社ヲ設ケタリ
蓋此漁商社ヲ設クル所以ハ従前ノ如ク各自ニ
漁シテ生計ヲ為ルニアラス同心戮カシテ裝置
ヲ大ニシ其漁スル所ヲ以テ共ニ其利ヲ分クタン

トスルニアリ乃近世發明ノ蒸氣機械ヲ用井テ
其装置ヲ助ケ以テ漁獵ヲ簡易ニシ且迅速ニ市
場ニ運輸スルヲ得タリ斯ノ如ク漁獵ノ工夫ヲ
發明セルニ曰リ市場ニ運輸スル所ノ鮮魚モ亦
従ヒテ其數ヲ倍スルニ至ルハ必人心ノ希望ス
ル所ナリ夫内地ノ諸都府ニ於テハ新鮮ノ魚類
甚稀ニシテ間之アリト雖皆貴官豪家ノ食スベ
キ物トシテ常ニ之ヲ買フ者多カラズ然レモ龍
動府下ニ於テハ鮮魚ヲ食スルノ多キト下文ヲ
以テ知ルベシ每季新報百五十五号ニ龍動魚商

ノ景況ト題セル章アリ其詞ニ曰ク當府下ニ魚
類ヲ運輸スルニ昔ハ船ニ積ミタレモ今ハ鐵道
ノ設アリテ其運輸ヲ便ナラシム東方鐵道ノ如
キハ僅四ヶ月餘ニ每宵青魚ノ類ヲ運輸スルト
百噸ナリ之ヲ總計スルハ一歲中ニ一萬二千
八十一噸ト為ル西南鐵道ノ如キハ年々青花魚
ノ類ヲ運輸スルト四千噸トス其迅速ニ龍動府
ニ達スルト東方鐵道ト異ナラズ但青花魚ノ類
ハ南海ノ産ナリ西北鐵道ノ如キハ初鼓ニ愛爾
蘭蘇格蘭其他東北ノ海岸ヨリ魚品ヲ聚メテ龍

勸府下ゼームス、ストリー街ニ運輸スル、三千
 五百七十八噸ナリ。就中鮭魚ヲ以テ重シトス。北
 方鉄道ノ如キモ、鮭魚ヲ運輸スル、三千二百四
 十八噸ニシテ、其市場ニ到ルハ常ニ早晨ナレドモ
 時トシテハ較後ル、トアリ。西方鉄道ノ如キハ
 コルニシテ、ヴァンシヤルニ州ノ海岸ヨリ魚類ヲ聚
 メテ運輸ス。其重ナル者ハ青花魚及ビルナルド
 青魚ニ似テ、稍小ナル者ノニ種ニシテ、其量一千五百六十噸
 ニ下ラス。南方鉄道ノ如キハ牡蠣ヲ運輸スル、
 一萬五千「バツセル」外量ノ名大抵我ニ下ラズ加フ

ルニ他ノ魚類ノ運輸四千噸ナリト云フ。右ハ皆
 年々運輸スル比例ナリ。
 ミストル、ユチヌメーヒウ氏ノ著セル龍動商賣往
 來附録ニ、貧民營生法ト題セル書アリ。諸方ヨリ
 龍動府下ノ市場ニ魚類ヲ運輸スル一年ノ總計
 ヲ舉グル、左ノ表ノ如シ

魚ノ種類	魚ノ總數	魚ノ種量
鮭魚	二萬九千函 <small>但一函四十尾ヲ容ル</small> 總計三百四十八磅ナリ	四十萬六千尾ナリ

<p>鰻魚 ヲ</p>	<p>鞋底魚 ク 底魚 ラ メ</p>	<p>大口魚 ク ラ</p>
<p>四十萬尾</p>	<p>九千七百五十二 萬尾</p>	<p>一千七百九十二 萬尾</p>
<p>一尾ノ量大約十磅ナリ 其總數ヲ合算スレバ四十 萬磅ナリ</p>	<p>一尾ノ量一磅四分ニ シテ其總數ヲ合算ス レバ二千六百八十萬磅 ナリ</p>	<p>一尾ノ量六、隱斯強ニシ テ其總數ヲ合算スレバ 六百七十二萬磅ナリ</p>

<p>鱧魚 ス、キ</p>	<p>比目魚 ホシカレイト 稱スル者</p>	<p>青花魚 ク ハ</p>
<p>二百四十七萬尾</p>	<p>三千三百六十萬 尾</p>	<p>二千三百五十二萬 尾</p>
<p>一尾ノ量ニ磅許ニ シテ其總數ヲ合算 スレバ五百四十萬 磅ナリ</p>	<p>一尾ノ量一磅ニシ テ其總數ヲ合算ス レバ三千三百六十 萬磅ナリ</p>	<p>一尾ノ量一磅ニシ テ其總數ヲ合算ス レバ二千三百五十 二萬磅ナリ</p>

百斗
六

青魚 ニシン	青魚 ニシン 函ニ容レテ運 輸セザル者	鰻魚 イワシ
二十五萬函但一 函ニ十百尾ヲ容 ル總計一億七千 五百萬尾ナリ	十億零五百萬尾	其數計リ難シ
一億七千五百萬尾 ノ量四千二百萬磅 ナリ	十億零五百萬尾ノ 量二億五千二百萬 磅ナリ	一年間運輸ノ量ヲ 合算スレバ四百萬 磅ナリ

比目魚一種	タ 比目魚ノ 種類	鰻魚 イワシ
七千三百多トシ但一 斗ハ此魚三千六百リヲ合 算ス五千五百九十二尾 ナリ	七千五百多トシ但一斗 ルトハ此魚三十六尾ナ リ之ヲ合算スレバ二十七 萬尾ナリ	九百七十九萬七 千七百六十尾
二十五萬九千二百 尾ヲ合算スレバ四 萬三千二百磅ナリ	二十七萬尾ヲ合算 スレバ四萬八千七 百五十磅ナリ	一尾ノ量一磅六分ニ シテ其總數ヲ合算スレ バ一百五十萬五千二百八十 磅ナリ

右鮮魚ニ係レリ

種類	總數	重量
函填鰺魚 函 尾ナリ	一萬五千函但一 函ニ四十尾ヲ容 ル 總計七十五萬 尾ナリ	一萬五千函ノ量ヲ 合算スレバ四百二 十萬磅ニ當ル
鹽漬鰺魚 シホシタ	百六十萬尾	一尾ノ量五磅ニシ テ其總數ヲ合算ス レバ八百萬磅ニ當 ル

燻乾鱸魚 クスマカセ	六萬五千函但一 函ニ三百尾ヲ容 ル 總計一千九百 五十萬尾ナリ	六萬五千函ノ量ヲ 合算スレバ一千零 九十二萬磅ニ當ル
---------------	---	----------------------------------

ブロートル 魚 一種	二十六萬五千籃 但一籃ニ百五十 尾ヲ容ル 總計一 萬四千七百萬尾ナリ	二十六萬五千籃ノ 量ヲ合算スレバ一 千零六十萬磅ニ當 ル
---------------	--	---------------------------------------

鹽漬青魚 シホシタ	十萬函但一函ニ 五百尾ヲ容ル 總 計五千萬尾ナリ	十萬函ノ量ヲ合算 スレバ一千四百萬 磅ニ當ル
--------------	-----------------------------------	------------------------------

魚類
八

盗漬鯷魚	右乾魚ニ係レリ	種類 牡蠣 <small>カキ</small>
九千六百串但三 十尾ヲ一串トス 総計二十八萬八 千尾ナリ	總數	四億九千五百八十 九萬六千箇ナリ
九千六百串ノ量ヲ 合算スレバ九萬六 千磅ニ當ル	重量	其量計リ難シ

蝦	蟹	小 蝦
一百二十萬箇	六十萬箇	三百二十四箇ヲ以テ一 ントニ當ツ一年ノ総 計四億九千八百五 萬八千六百零八ナリ
一箇ノ量一磅ニシ テ總數一百二十萬 磅ニ當ル	一箇ノ量一磅ニシ テ總數六十萬磅ナ リ	其量計リ難シ

...

...

...

小甲番 <small>ハイ</small>	二百二十七願ヲ以テ半 ハッセルニ當ツ一年ノ 總計四百九十四萬三千 二百ナリ	同上
マス <small>マス</small> クル <small>クル</small> 介	一千ヲ以テ半ハッ セルニ當ツ一年 ノ總計五千零四 十萬ナリ	同上
海扇 <small>イタガヒ</small>	二千ヲ以テ半ハッ ンニ當ツ一年ノ總計 六千七百三十萬零 二十ナリ	同上

ペリウィニクル介	四千ヲ以テ半ハッ ビルニ當ツ一年 ノ總計三萬零四 百ナリ	同上
右介蟲ニ係レリ		
夫魚類ノ質ハ大ニ人ノ軀體ヲ滋養スル者ニシ テ人ノ食スレバ必補益アリ故ニ貴賤貧富ノ 別ナク皆之ヲ尚ブ然ルニ魚類ハ食料ノ内ニテ 最廉賤シ易キモノナレバ新鮮ニ乘ジテ之ヲ食		

セザレバ却テ人ノ軀体ニ害アリ宜シク新陳ヲ
辨別スベシ比目魚一種、ヒラメ鞋底魚、ヒラメ鰈魚、ヒラメ鱈魚、大口魚
ノ如ク火氣言ルヲ受ケテ白色ニ變ジ其肉凝
結力合家ノ語ニシテ即チ肉ノ附著スルヲ吉フヲ減ズルモノハ最モ消
化シ易ク、サケニシテ鮭魚、青魚、鰻鱺ノ如ク其分子脂賦質ヲ
備フル者ハ人ノ軀体ヲ滋養スル上ノ魚類ニ
比スレバ較多シト雖モ其消化ニ至リテハ較遅レ
フロヘシ、ブルブランテト云ヘル者魚類其他諸肉
類ノ滋養質ヲ論シテ曰ク冷水ヲ以テ屢動物ノ
肉ヲ洗フハ残ル所ノ分子專_ニ蛋白質ノ物ト為

ル其質舍密上ノ論ニ據レバ血液凝結物ト大抵
同一ナリ故ニ其滋養質アルヲ瞭然タリト肉ハ
又膠質ヲ備フル者ニシテ牛肉其他種々ノ肉類
ヲ焚クハオスマゾント稱スル一種無類ノ
香氣ヲ發ス是膠質ノ為ス所ナリ故ニ人肉類ヲ
食スレバ必_ズ其軀体ヲ滋養スルハ其蛋白質及膠
質アルヲ以テナリ魚類ニ在テハ此二質ノ量固
ヨリ鳥獸ト差異ナキニ非レ氏極ノテ微少ナリ
此等ノ一ハ最_モ人ノ知ル可キ者ナレバ次ノ表ヲ
以テ詳ラカニ之ヲ示ス

魚類論上 十 大 部 目

肉類	水分	蛋白質	膠質	滋養成分
羊肉百隱斯	七十一隱斯	廿七隱斯	七隱斯	廿九隱斯
雞肉百隱斯	七十三隱斯	廿隱斯	七隱斯	廿七隱斯
牛肉百隱斯	七十四隱斯	廿隱斯	六隱斯	廿六隱斯
猪肉百隱斯	七十五隱斯	十九隱斯	六隱斯	廿五隱斯

猪肉百隱斯	七十六隱斯	十九隱斯	五隱斯	廿四隱斯
鯊魚肉百隱斯	七十九隱斯	十四隱斯	七隱斯	廿一隱斯
鞋底魚肉百隱斯	七十九隱斯	十五隱斯	六隱斯	廿一隱斯
鱸魚肉百隱斯	八十二隱斯	十三隱斯	五隱斯	十八隱斯

総て肉類ノ含有セリ水分ヲ量ルノ方法ハ之ヲ
緻密ナル器中ニ容レ二百十二度以下ノ温度ニ

テ之ヲ熱シテ蒸氣ヲ發セシメ其蒸氣ノ多寡ニ
 由リテ水分ヲ推究スルナリ右ノ表ニ記セル滋
 養成分トハ即チ蛋白質及膠質ヲ合セ稱ス蓋此ニ
 質ハ滋養成分タルヲ以テナリジニストンノ
 三魚類ハ脂膏ヲ有スルト大約鳥獸ノ肉ヨリ寒
 テシトスト
 時ナラザル魚ハ其味美ナラズシテ人之ヲ食ス
 ル中ハ其軀體ヲ害スルニ至ル蓋時ナラザル魚
 ハ必ス病アレバナリ然レニ造化ノ自然ニ頼リテ
 其種類ヲ異ニシ從ヒテ其時モ亦同シカラス故

ニ終年絶エス其時ノ魚類アリ今下ニ記スル所
 ノ魚表ハ英國魚市ノ諸場ニ揭示セル者ニシテ
 人之ヲ一見スル片ハ其月ハ其種ノ魚ノ時ニメ
 其種ノ魚ハ時ナラズ又其種ノ魚ハ最好時節ナ
 ルヲ知ルベシ

魚種	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
鯉魚	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
海扇	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
鰻魚	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時

魚類ノ時節
 魚類ノ時節
 魚類ノ時節

鰯魚	小蝦	鮭魚	ア ラウシ 介	比 目魚	牡 蠣	マ ス ク ル 介	鰯魚	青 花 魚	蝦
時	時	時不	時不	時	時	時	時不	時不	時不
時	時	時	時不	時不	時	時	時不	時不	時不
時	時	時	時	時不	時	時	時不	時不	時不
時	時	時	時	時不	時	時	時	時	時
時	時	時	時	時	時不	時不	時	時	時
時	時不	時	時	時	時不	時不	時	時	時
時	時不	時	時	時	時不	時不	時不	時不	時
時不	時	時不	時不	時	時	時	時不	時不	時
時不	時	時不	時不	時	時	時	時不	時不	時不
時	時	時不	時不	時	時	時	時不	時不	時不
時	時	時不	時不	時	時	時	時不	時不	時不

リン グ 魚	青 魚	ハリ ブ ト 魚	鱸 魚	秋 魚	比 目 魚 一 種	鰻 魚	鱈 魚	ダ ブ 魚	蟹
時	時	時	時	時不	時	時	時	時	時不
時	時不	時	時	時不	時	時	時	時	時不
時	時不	時	時不	時不	時	時	時	時	時不
時不	時不	時	時不	時不	時不	時不	時	時	時
時不	時	時	時	時	時不	時不	時	時	時
時不	時	時	時	時	時不	時不	時	時	時
時不	時	時	時	時	時不	時不	時	時	時
時不	時	時	時	時	時不	時	時不	時	時
時	時	時	時	時	時不	時	時不	時	時
時	時	時	時	時	時不	時	時不	時	時
時	時	時	時	時	時不	時	時不	時	時
時	時	時	時	時	時不	時	時不	時	時

近世汽船、汽車ノ發明以來、世人運輸ノ便ヲ得テ、
國內四邊ノ海岸ヨリ龍動府下及近境ノ外國諸
都府マデ皆鮭魚ノ市場ヲ開クニ至レリ。蓋龍動
一府内ト雖モ其魚市場ヲ開クニ漸多ケレバ、漁獵
モ亦隨ヒテ盛大ナラザルヲ得ズ。況ヤ更ニ外國
ニ魚市場ヲ開クヲヤ故ニ輓近ハ殆、鮭魚ヲ漁シ
盡サントスルノ勢アリト云フ。曠昔ハ其漁法ノ
粗ナルニ曰リテ、一秒時間ニ鮭魚ヲ捕ルル十尾
ニ過ギザリシカ、近世其方法ノ精巧ナルニ及ビ
テ之ヲ捕ルル十倍セリ。然ラバ河海ハ天賦無盡

ノ産魚府ナリト雖モ其産物ヲ以テ其求メテ充足ス
ルノ能ハズ。故ニ國內諸海ニ在ル鮭魚ノ大數昔
日ノ三分一ト為トリ。世人ハ之ヲ怪ムト雖モ漁者
ハ其過甚ニ鮭魚ヲ獲タルヲ以テ斯ノ如ク減ゼ
ルヲ知レリ。一千八百五十六年、第十月ニ方リテ
設クル所ノトグイド河漁務課ノ集會ニ於テ、ロ
ルド、ホルウ、ルスト云フ人漁獵ノ景況ヲ聞テ是
ヨリ先キ三十年其朋友ニ告ゲタル說ノ的切ナル
ヲ知レリ。其說ニ曰ク、漁人ノ幸運既ニ盡キタリ
ル後ハ必本資ヲ費ヤスト雖モ其利ヲ得ルル能ハ

ズト

鮭魚ヲ捕ルノ方法ハ千種萬様ナリ其漁處或ハ海邊ニ在リ或ハ滿潮ノ曲江ニ在リ或ハ大河ニ下ル等ノ如キ各其地勢ニ從ヒ適宜ノ方法ヲ用井ルナリ但シ海邊及曲江ニ於テハ夏月ノ間鮭魚水ヲ横ギリテ游行ス此時ハステーク子ト稱スル方法ヲ用井ルヲ最好シトステーク子トハ我ノ樹テ疎ナル長網ヲ以テ之ニ繫ギテ之ヲ淺深ノ水界ヨリ直線ニ海中ニ引キ張り此網ニ友網ヲ附ケテ之ヲ曲折シ其中ニ鮭魚ヲ誘クノ

装置ナリ鮭魚海邊ニ傍ヒテ游行スルハ大網其途ヲ遮ル故ニ前支網ノ曲中ニ入ラザルヲ得ス入ルバ必再脱シタルヲ能ハズ大河ノ上流ニ於テハスウーフ子ト稱スル大網ヲ用井ルナリ其方法ハ網ノ一端ヲ固ク河邊ニ繫キ小艇ヲ以テ其一端ヲ迅速ニ引キ出シ而シテ上流ニ溯ル所ノ鮭魚ヲ圍ムナリ之ヲ圍ミテ後河邊ヨリ漸次ニ其網ヲ引キ上ク但シ其未大網ヲ引キ出サバルニ方リ河邊ニ在リテ鮭魚ノ来ルヲ視バ其暗号ヲ為ザルベカラズ又中流ニ於テ鮭魚ヲ捕

ルキハ漁人等コアルト稱スル小艇一乗り長網
ヲ水中ニ投シテ之ヲ引キ揚ク此業ハ實ニ辛勞
ナレ氏能ク之ヲ行フキハ必大利ヲ得ルナリ又
上流ニ於テ鮭魚ヲ捕ルキハ水堰ヲ建築シテ其
邊ニ「クルイブ」ト稱スル圍場ヲ設クルナリ鮭魚
流ニ溯ルキハ必此圍場ニ入ラザルヲ得ズ但此
圍場内ニハ疎籬ノ設アリテ一入レバ之ヲ脱シ
去ルヲ能ハズ又時宜ニ由リテ水ト小舎ヲ設
ケ其所ヨリ囊状ノ網ヲ投ジテ上流ニ溯ル所ノ
鮭魚ヲ捕ルヲアリ又瀑布ニ在リテハ間長鎗ヲ

以テ刺スヲアリ此等ノ諸法ヲ用井バ年々鮭魚
ヲ捕ルヲ擧テ數フベカラズ總テ海賊ハ鮭魚ヲ
以テ日常ノ食料トシテ之ヲ嗜ム他ノ魚類ヨ
リモ甚シ故ニ其漁獵尙盛ナラザルヲ得ズ是鮭
魚ノ漸々欠乏スル根源ナリ假令無數ノ仔ヲ産
スルモ河水大ニ漲ルキハ之ガ為ニ漂蕩セラレ
終ニ成長セズシテ過半死スルヲアリ又幸ニ水
害ヲ免レテ稍成長セントスルモノハ或ハ石斑
魚ノ食餌トナリ或ハ水蟲ノ食餌トナリ或ハ水
禽ノ食餌トナリ又大旱ノ年ニ方リテ河水盡涸

大
目

ク其ハ日熱ニ灼爛セラレ又他ニ新河ヲ鑿チテ
其水ヲ導ク其ハ從ヒテ其新河ニ流入スル者ア
レ其多クハ為ニ害セラル此等ノ患害ニ罹ラズ
シテ始テ鯉魚ノ形ヲ成スモノハ又其河水ノ近
傍ヨリ華臍魚ヒコウ群集シテ之ヲ食フ蓋鯉魚ノ常ニ
華臍魚ノ食餌トナルハ河畔ノ住民能ク知ル所
ナリ就中河畔ニ居テ豕ヲ牧スル者ハ殊ニ然リ
何トナレバ豕ノ食餌ハ小鯉魚ヲ以テ最好トス
故ニ牧者常一之ヲ捕ルト雖華臍魚ノ群集スル
所ハ必其漁ノ寡ナキヲ以テナリ

鯉魚ノ欠乏スル原因ハ前文ニ述ブルノ三ナラ
ズ更ニ種々ノ事アリ就中其甚シキ者ハ年々大
ニダリルスニダリルスニダリルストハ始メテ清水ヲ捕へ或ハ
孕魚ヲ捕ルナリ但漁所ニ由リテダリルスヲ捕
ルト尋常ノ鯉魚ヨリ多シ此業漸盛ニ行ナル
、其ハ後必ダリルス未久ノ食餌トナラザル時
ニ仔ヲ産スルヲ得ス然ラバ漸次ニ鯉魚ノ欠乏
スルハ必然ノ理ナリ蓋孕鯉一尾ノ量四磅乃至
五磅ニシテ其一磅毎ニ一千ノ卵ヲ孕ムトセバ
其一尾ヲ捕ルモ後來漁業ノ乏シカラント甚大

ナルベシ譬ハトヴィド河ニ於テ近來五年ノ間
八年々鮭魚ヲ捕ル_レ十四萬尾ニ過ギズ然レモ
其以前ハ其數幾倍ナルヲ知ラズ其原因他ニア
ラズ大ニ孕魚ヲ捕ル_レ然ラシムル所ナリ但_レ其
十四萬尾ノ内十萬尾ハ孕魚トシテ其産スル所
ノ卵數各五千アリトセバ年中必_ス五億ノ鮭魚ヲ
欠乏スルノ理ナリ五億ハ其數過多ニメ人遠ニ
理會シ難シ其百令ノ一ト雖_モ恙ナク之ヲ成長セ
シメ其適宜ノ時ヲ擇ビ之ヲ漁シテ市場ニ運輸
セバ皆鮭魚ノ衆多ナルヲ視テ必_ス曰_フ鳴呼漁業

ハ盛ナル武富商豪農モ焉比肩スルヲ得ニヤト
故ニ鮭魚ノ卵ヲ生ズル時ニ當リ其河ニ罾ヲ張
リ梁ヲ造ル等都テ漁獵ニ関スル事ヲ為ルハ其
成育ヲ妨グルナリ宜シク之ヲ避クハシ若_シ之ヲ
避ケザレバ異日鮭魚ヲ乏シクスルノ一源トナ
ルマシ昔サハルウ_イトス_ルコトノ時代ニ方リテ
諸河皆鮭魚ニ富ミシハ其諸漁社ニ令シテ卵ノ
生産スル時ハ必_ス漁獵ヲ禁スルヲ以テナリ此ニ
餘ク注意シテ其卵ノ生産スル時ヲ避クハシ然
ルニ此ニ注意セズシテ最小ナル鮭魚ヲ捕ルモ

ノ頗多シ故ニ魚市場ニ於テ無味ノ小魚ヲ販賣スルヲ今尚盛ナリ前ニ舉ゲタルトヴレド河漢務課ノ集會ニハツシリチ州侯某氏曰クトヴレド河ノ上流ニ居ル漁人ハ其所為最輕卒粗暴ニシテ時ナラサル魚類ヲ捕ルノ弊ヲ免レズト又曰クイドリツク河及ヤルロウ河畔ノ漁人等ハ皆余ノ辨論ニ服シテ其時至ラザレバ必其魚ヲ捕ヘズト

近來發兌ノ毎季新報ニ曰ク漁獵ノ事ニ就キニ百年来諸説紛々トシテ何レノ事カ是レ何レノ業

カ非ヲ決スルヲ能ハズ然レモ現今ニ至リテハ時ナラザル魚ヲ捕ルノ弊ヲ知レリ往時河口ノ邊ニ住スル漁人等ハ恒ニ網羅ヲ河口ニ張リテ早春ヨリ漁獵ヲ始ムルヲ感ナルカ故ニ鮭魚ノ始テ形ヲ成シ將ニ河水ニ溯ラントスル時大ニ之ヲ捕ヘ又其新味ナルヲ以テ魚市ノ畔價値不廉ナルヲ幸トシ類ニ之ヲ轉輸セリ蓋河口ハ鮭魚ヲ捕ル最好ノ地位ナリ故ニ其地位ヲ占ムレバ必早春ヨリ魚類ノ新味ナル者ヲ捕ルヲ得マシ然レモ河中ノ潮路ニ於テ魚梁ヲ造リ長網ヲ

扱ジテ河口ノ餘殘ヲ捕ル者ハ皆早漁ヲ惡ム是
 早春ヲ過ギ去リテ後始テ鮭魚ヲ捕ルノ好時節
 ニ至ルト雖其得ル所甚乏シケレバナリ故ニ鮭
 魚ノ河水ニ溯リテ其充滿スルヲ待テ然ル後其
 漁獵ヲ開カンテヲ希望スレバ亦晚漁ノ弊ナキ
 一能ハズ晚漁トハ鮭魚ノ河水ニ生ムト久シク
 シテ其味ヲ損シ遂ニ食料ニ適セザルニ至ルモ
 尚之ヲ漁スルヲ謂フ又河水ノ上流ニ在リテ漁
 スル者ハ其漁時ノ早晚ヲ論ゼス常ニ其利ヲ謀
 ランガ為ニ或ハ網ヲ張り或ハ深ヲ造リ鮭魚ヲ

上流ニ止メテ海ニ下ラシメズ是短見ト謂フベ
 シ
 方今ニ至リテハ其方法ヲ改メ作為ヲ以テ夔河
 水ヲ塞グトテ發明ス故ニ河口ハ之カ為ニ其漁
 獵ノ利ヲ河源ニ讓ルニ至レリヒルス近傍ノテ
 一河ニ於テ此事ヲ試ミシニ若久シク塞河ノ勞
 ニ耐ヘバ鮭魚ノ繁殖極メテ多クシテ其裨益増
 多カラシム其故何ゾヤ夫ノ諸河ニ於テ鮭魚ノ卵
 ヲ生スル時常ニ水漲其他種々ノ大害ヲ受クレ
 バナリ上ニ詳ク又從來漁人ノ行ナハル卵ヲ保

シ或ハ小魚ヲ護スルノ方法ハ其如何ヲ論ゼス
皆鮭魚ヲ繁殖セシムルノ一端ニシテ嘗テテ
河ニ於テ經驗シ普ク漁人ノ知ル所ナリ
愛爾蘭蘇格蘭ノ諸河ニ於テ漁シ得タル鮭魚ハ
過半龍動及國內ノ大都府ニ運輸シ其殘レルモ
ノハ之ヲ近鄰ノ外國諸都府ニ輸出ス但其腐敗
ヲ防グノ方法ハ常ニ氷ヲ以テ之ヲ包メトモ未
此方法ヲ發明セザリシ時ハ大抵皆塩ヲ用甘々
リ故ニ之ヲ販賣スルニ至リテハ全ク乾枯シテ
其美味ノ損ス又羅馬教信奉ノ諸國ニ於テレシ

止ト稱スル四十日ノ齋式ヲ為ル時ハ必ズ鮭魚ヲ
求ムルガ故ニ其價ノ貴キヲ最甚シ之ニ反シテ
愛爾蘭蘇格蘭ニ於テハ近世マデ新鮮ノ鮭魚一
磅ニテ其價一ニペンスニ過ギス而メ此鮭魚河
邊ニ住スル者ハ皆常ニ鮭魚ヲ以テ食料トス故
ニ戸々一函ノ塩漬鮭魚或ハ一列ノ燻乾鮭魚ヲ
貯ヘザルモノナシ然レモ現今ハ斯ノ如クナラ
バ龍動魚市ニ於テハ大鮭魚一尾ノ價肥羊一頭
ヨリモ貴シ蓋龍動ノ近傍ハ鮭魚甚多シ或河ニ
テハ間之ヲ捕ルアレトモ其業見戲ノ如クニ

魚類書上 卷一ノ一ノ一

百利全書 海狗卷一 魚音考
シテ之ニ漁名ヲ下スニ足ラズ但シセトムス河ノ
如キハ其一ニ居レリ而メ其鮭魚ハ味美ナラズ
故ニ其價モ亦最低シ愛爾蘭ハ清澄ナル川河多
クシテ鮭魚ニ富ム其自國所用ノ剩餘ヲ以テ龍
動及リウエルポールニ輸出セリ故ニ近年愛爾蘭
ノ川河ニテ鮭魚ヲ捕ルル其數精算シ難シト雖
一千八百四十二年以前ハ之ヲ詳ラカニスルヲ
得タリ或人ノ説ニ據レバ諸漁所ニ於テ年々鮭
魚ヲ捕ルルノ數ヲ平均スレバ一漁所ノ量ニ百噸
ニ當ルナリ譬ハ一千八百四十二年フイル河ニ

於テ鮭魚ヲ捕ルル三百噸餘ノ重量ニ當リ一千
六百三十八年第一世チャールズ王即位ノ時同河
ニ於テ鮭魚ヲ捕ルル二百四十噸ノ重量ニ當リ
コレリヤン州ノバン河モ嘗テ鮭魚ヲ捕ルル盛
ナルヲフイル河ト伯仲タリ就中シャンノン河ハ
最其甚盛ナル者ナリ一千八百四十二年ヨリ稍
以前ニ方リシャンノ河畔チルグリント稱スル
都府ニ於テハ數月間ニ鮭魚ヲ販賣スルル三萬
六千トララルノ額ニ過ギシトアリバルリナ州
内ノモイ河リスモール州内ノブラクウイトル

河及バルリシヤンノ州内ノイルン河等ニ於テ
 モ亦鮭魚ヲ捕ルノ數三百噸許ノ重量ニ當レリ
 ト蓋シ此説ヲ唱ヘシ人ハミストルウルシント
 氏ナルベシ又同氏ノ著述セル漁獵書ニ曰ク昔
 者愛爾蘭ノ川河ハ鮭魚甚多ク從ヒテ漁獵モ亦
 盛ナリシガ今ハ鮭魚漸々乏シクシテ漁獵モ亦從
 ヒテ衰フ其原因ヲ尋ヌルニ蘇格蘭ノ鮭魚河ノ
 如ク必早渙過捕等ノナス所ナルマシト
 嘗テ蘇格蘭ノ川河ニハ鮭魚最モ多クシテ他ニ運
 輸スルノ甚盛ナリ故ニ其渙獵稍少ナキ川河ト

雖其價膏腴ノ田園數百坪一坪我カ四段十多キ
 ニ優レリ且川河ハ造化ノ自然ニ由リテ美魚ヲ
 産シ其之ヲ捕ルノ經費ハ田園ニ於テ茅舎ヲ結
 ビ溝渠ヲ鑿テ圍播ヲ作り種子ヲ播スル等ノ艱
 難ニ以スレバ甚寡ナシト雖愛ニ又一序ナキコ
 能ハズ即川河ハ星霜ヲ歴ルニ從ヒ斬々其産物
 ヲ減ズルナリ譬バマ一千八百十四年ノ頃トガイ
 下ニ於テ鮭魚ヲ捕ルノ極メテ多クシテ其價ハ
 萬六千ドルラレニ下ラザレド當今ハ其四分ノ
 一ニ及バズ故ニ其河上ニ在ルベルウツトト稱

スル都邑ハ嘗テ鮭魚函ノ運輸セル數十五萬ナ
リシガ今ニ至リテハ三萬ニ過ギザルガ如シ其
他ノ諸河ハ推シテ知ルベシ斯ノ如ク諸川河鮭
魚ニ乏シト雖龍動府内ニ運輸スル所ノ鮭魚ハ
其數古今差異アルヲシ但國內他ノ諸都府ハ
然ラバ蓋龍動ハ英國ノ最大都會タルヲ以テナ
リ
英國ニ於テ咸ニ販賣スル川魚ハ鮭魚サレモ
トロート魚一種及ロチルウエン河産ノ石班魚
ニシテ此三種ヲ除ケバ他ニ盛ニ販賣スル魚ナ

魚類ヲ繁殖セシムル事
佛國ニ於テ水中ノ産物ヲ繁殖セシムル良法ヲ
リ故ニ英國モ亦此良法ヲ取リテ處々ノ江湖川
河ニ施用セバ必實效ヲ奏シテ魚類ノ繁殖スル
ノ疑ナク且魚市モ益段盛ヲ期スベシ嘗テ佛國
ノゼレン及レミール等無思勞慮シテ發明セル魚
卵ヲ孵スル器械アリ佛國政府其國ノ江湖川河
ニ魚類ヲ繁殖セシメンガ為ニ之ヲ試用シテ其
實效ヲ顯ハセリ其後日耳曼ニ於テモ亦之ヲ用

井タリ故ニ此ニ國ノ川河ハ大ニ其價ヲ騰貴セ
 リ英國ト雖之ヲ用井難キニ非ズ果シテ能ク之
 フ用井テ魚卵ノ成長ヲ妨グル諸源曰ヲ除カバ
 自國ノ川河ハ固ヨリ論ナシ他邦遠近ノ地ニ魚
 卵ヲ運輸スルモ尚餘アルベシ
 英國ハ未^レ此法ヲ用井ガレ^レ近年四方ノ川河ニ
 於テ頻^リ魚類繁殖ノ^リヲ謀リ以テ天賦^ノ産魚
 府ノ永存セント欲セリ其ノ鮭魚社ハ試ニ^テウ
 シ^ル州内ノ^ガルト^ト林スル一河ニ器械ヲ装
 置シテ新^ニ漁法ヲ開カントス此器械ハミスト

ル、ヨソ^リリ^リブボクシウスノ創製スル所ニシテ
 後來必其装置ヲ大ナラシメン此器械果シテ魚
 類ヲ繁殖セシムルノ用ヲナサバ他ニ數種ノ漁
 法アルモ其如何ヲ論ゼズ皆之ガ為ニ三舍ヲ避
 クマン蘇格蘭ノ川河溝渠等ニ於テハ大ニ魚類
 繁殖ノ方法ヲ施シ易シ此等ノ^リヲ了知セル者
 アリテ一千八百五十七年第三月發兌ノ農漁景
 況記ニ蘇格蘭ノ^リヲ編入シテ曰ク此國ノ諸溝
 渠ノ長ヲ合算スレハ百八十里許ナリ此溝渠ヲ
 シテ數種ノ美魚ニ富マシメンハ甚容易ナルベ

シ然ルニ何ノ妨碍アリテ之ヲ為ザルヤイデイン
 ブルダ蘇國ノノウイトル、コムバニ商社ハビ
 シトランド、ヒル山ノヨムペニセー、ン、ポント
 池ヲ有ス然ルニ其池ノ魚類ヲ繁殖スルニ注意
 セザルハ何ゾヤレ、キウ子ルン湖ハ鮭魚ノ種
 類ヲ産スルノ夥シ然ルニ爰ニ漁業ヲ開キテ年
 々輸出スル所ノ魚類ヲ増加セザルハ何ゾヤ是
 余ノ怪ム所ナリト又曰クロツチュヲスリンドルス
蘇國ニアル曲江ノ名ナリハベルス及ダンデーノ如キ煙戸
 稠密ナル都府ヲ距ルノ甚近クシテ僅ニ半時間

ニシテ至ルマク又イデインブルグヨリハニ時間
 グラスゴウヨリハ四時間ニシテ達スベシ然ラ
 ハ魚類繁殖ノ諸方法ヲ試験スルニ最便宜ノ地
 位ナリ何ヲ以テ此曲江ヲ試験ニ用井ザルヤ是
 亦余ノ理會セザル所ナリト又英國ノ事ヲ編ハ
 シテ曰ク此國ノ漢人「フラック、バツ」ト稱スル一種
 ノ美魚ヲ捕ルニ勉勵セハ必其國ニ利益アルベ
 シト但「フラック、バツ」米國ノ清河ニ産スル魚ニ
 シテ此魚、食餌ヲ喫スル片ハ其勢甚劇烈ナリ又
 漁人ノ網ニ入ル片ハ之ヲ破リテ脱去セントス

ルノ猛ナルト他魚ニ其比ヲ見ズ然レ其味ニ
至リテハ極メテ美ニシテ之ト比スベキ者ハ僅
ニ指ヲ屈シテ數フルノミ而ノ其常ニ食餌ト為
ベキ者ハ小魚ニシテ其重六磅乃至八磅トス嘗
テストルモントヒールドニ於テ魚類繁殖ノ
ニ就キ數様ノ試檢ヲ為シテ其試檢ヲ司ト
リタル者已ノ試ミタル諸事ヲ録シテ普ク世ニ
布告セリ今其一事ヲ舉グテ爰ニ示サン凡小鮭
魚三十餘萬ニ標点ヲ附シストルモントヒール
ドノ沼池ニ放チテ之ヲ養テ其成長ノ後テ

河ニ游行セシメテ之ヲ捕ルト一千尾ニ四十尾
ノ比例ニシテ其總數一萬二千尾アリ是則沼池
ニ成長セルモノナリ然レ其彼ノ三十万尾ハ一
年間ニ皆沼池ヲ去リテ河水ニ游行スルニ非ズ
故ニ一萬二千尾ト雖亦一年間ニ獲ベキニ非ズ
必ス二年間ヲ歷ザルヲ得ズ蓋從來テ河ニ於テ
年々鮭魚及シリルスヲ獲ルノ數ヲ平均スレバ
六萬尾ナレドモ是ヨリ前二年間沼池ニ成長シ
タル鮭魚ハ此數ノ十分一ニ居ル何トナレバ此
二年間ハ鮭魚ヲ捕ルト六千尾ナルヲ以テナリ

百利全書
漁業
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

上文ニ述フル所ノ方法ハ鮭魚ヲ繁殖セシムル
ノ源ニシテ累年此方法ヲ用井バ必ス川河ヲ富マ
シムベシ譬バテ_レ河ニ百万ドルラ_ルノ價アリ
トシテ此方法ヲ用井ル片ハ十万ドルラ_ルヲ増
加スルガ如シ

青魚ヲ捕ル事

青魚ノ生産スル地位及其性質ハ從來諸説紛々
孰カ是ナルヲ辨明スル下能ハズ博物學者ハ青
魚ヲ以テピルチャルド魚青魚ニ似テ
小ナル者ニ似テ鮠魚鱒魚ニ
魚ホフイトミイト魚等ト同類ナリトス抑青魚

ノ形状ハ其長十_一インチ乃至十二_一インチニシテ
頗美麗ナリ其鱗ハ薄クシテ稍圓シ而シテ其体ノ
上部ハ或ハ藍色ノモノアリ或ハ綠色ノモノア
リ是レ日光ニ觸ル_レノ多寡ニ管セリ其下部ハ銀
色ヲ帶フ其腮膜ハ甚弛緩シテ其口ヲ閉クモ亦
廣キガ故ニ水ヲ離ルレバ即時ニ死ス是レ酸素ヲ
吸入スルノ多キヲ以テナリ古説ニ青魚ハ北方
ノ大海ニ産シテ其時節ヲ得レバ大ニ群集シテ
英國ノ海邊ニ近ヅキ漁人ニ獲ラル_レトス此説
一千八百年代ノ際マデ世ニ行ナハレタレ凡近

リ其網眼ノ周圍ハ一「インチ」ニシテ其價ハ十八
 「ドル」ヨリ二十「ドル」ニ至ル此英國議
 事官ノ命ニ因リテ定ムル所ナリ青魚ヲ捕ルニ
 方リ此網數十張ヲ排列シテ五百「ヤード」ヨリニ
 千「ヤード」ノ長トナス但其長キヲ要ス又其網ヲ
 排列スル片ハ「バックローフ」ヲ以テ其位置ヲ定ム
 「バックローフ」ハ列網ノ背面ニ横タハレル
 シテ之ニ洋標ヲ附シテ其列網ヲ水底ニ沈マサ
 ラシム若浮標ナケレバ列網ノ秤錘ヲ以テ忽水
 底ニ沈没スレバナリ此列網ニハ浮標ト秤錘ト

アルヲ以テ之ヲ撓カ所ノ小艇ハ其製造通例ノ
 船ト異ナリテ其價モ亦甚貴シ就中最良キ者ハ
 六百「ドル」ラルニ下ラズ
 青魚ヲ捕ルハ常ニ夜間ナレバ薄暮ニ小艇ヲ泛
 ヘテ其漁所ニ至リ其網ヲ海中ニ下スベシ青魚
 ハ日没ノ後ニ非レハ網ニ入ルナケレバナリ
 其網ヲ下スニ方リテ先ツ青魚ノ群集セル處ヲ擇
 ビ徐々ト其邊ニ小艇ヲ潜ギテ舳ヨリ網ヲ下ス
 ベシ既ニ下シ終レバ漁人ノ語ニテスウインロー
 フト稱スルニ十「フアソム」尺ノ長索ヲ以テ列網ノ

一端ヲ小艇ニ縛シ他ノ一端ヲ以テ或ハ錨ニ繫
キ或ハ海邊ニ繫クベシ通例ハスウヰンローフヲ
以テ其一端ヲ小艇ニ縛シ他ノ一端ハ海中ニ浮
漂セシム青魚群リ來ル片ハ其首ヲ網眼ニ挿入
シテ進退自由ナラズ又時宜ニヨリ久シク青魚
ノ來ルヲ待チテ空シク其夜ヲ明カシ晨曉ニ至
リテ始テ之ヲ捕ラバ籠ニ一時間ヲ過ギズシテ
必大漁アルベシ一般ニ青魚ノ網ニ入ルヤ否ヲ
知ラント欲サバ列網ノ一部分ヲ揚ゲテ之ヲ試
ムベシ若網ニ入ラザレバ更ニ多キ所ヲ占メン

ガ為ニ網ヲ拽キテ他ニ移リ再之ヲ水中ニ下リ
ルベカラズ漁所ヲ移シテ後果シテ青魚ノ網
ニ入ルヲ甚多クバ其網ヲ小艇ニ拽キ寄セ網眼
ヨリ青魚ヲ放取スベシ但放取ノ方法古今同ジ
カラズ古ハ小艇ヲ以テ其網ヲ拽キ海濱ニ至リ
テ後其網眼ニ掛レル青魚ヲ放取セシガ當今ハ
小艇ヲ以テ其網ヲ拽キ寄セテ直ニ網眼ヨリ之
ヲ放取スルナリ故ニ古ノ如ク魚ヲ損傷スルコ
トナシ

蘇格蘭ウイック
ク府ノ人民ハ皆青魚ヲ捕ルヲ以テ

蘇格蘭ウイックク府ノ人民ハ皆青魚ヲ捕ルヲ以テ

生計トス世ノ謗ニ曰ク魚骨ヲ以テ財本ト為ト
 蓋此都府ノ謂ヒカ實ニ此都府ハ煙戸稠密ニシ
 テ小艇及網等總テ漁獵ニ用井ル器具甚多シ其
 器具ノ價ヲ合算スレバ二十七萬ドルラルニ下
 ラス夫ウヱック府ニ於テ捕ル所ノ青魚ハ大約皆
 醃藏シテ他邦ニ運輸ス但一度ノ運輸其重量幾
 萬噸ナルヲ知ラズト雖人夫ヲ要スルト一千ニ
 下ラス又當府内ニ於テ青魚ノ腹ヲ割クヲ以テ
 生計ヲ營ミ或ハ其青魚ヲ桶中ニ填ムルヲ以テ
 餵口ヲナス者甚多シ就中婦女子ヲ多シトスリ

バルボール港其他近國ノ港灣ヨリ海塩ヲ積ミ
 テ當府ニ來レル小艇ハ常ニ青魚ノ送荷アルガ
 故ニ空シク歸港スルモノナシ蓋當府内ニ於テ
 青魚ヲ醃藏スル方法ハ常ニ最利益多クシテ且
 其迅速ナルト次條ヲ以テ之ヲ知ルベシ
 海中ニ於テ青魚ヲ捕リ其小艇ヲ漕ギテ速ニ海
 濱ニ歸レバ海濱ニ於テ淺キ大桶ノ中ニ其魚ヲ
 移シ婦女子ノ手ヲ藉リテ其腹ヲ割ク其迅速ナ
 ルト實ニ驚クベシ但一人ノ手ヲ以テ一時間ニ
 容易ク青魚一千尾ノ腹ヲ割ケバ假令幾萬尾ア

リトモ數人ノ手ヲ用井バ數時間ヲ過ギズシテ
盡其腹ヲ割クベシ然レモ此事ニ關スル婦人ハ
皆魚腹ヲ割クニ非ズ或ハ桶中ヨリ出ス者アリ
或ハ之ヲ醃ニスルモノアリ各其操作ヲ異ニス
其魚腹ヲ割クノ方法ハ先小刀ヲ横面ニシテ腹
ヲ割キ再之ヲ縱ニシテ其臟腑ヲ剔出ス唯縱横
ニ刀ニ過ギズ既ニ其腹ヲ割ケバ之ヲ他ノ桶
中ニ移シ塩ト魚トヲ雜ヘテ重積ス其未滿ニ滿
タザルヲ當リ木杵若ハ筋力強キ人ノ手ヲ以テ
屢塩ト魚トヲ攪シテ能ク之ヲ混和セシム其後

之ヲ周圍ノ匾キ桶若ハ底ノ深キ桶ニ填メテ他
邦ニ運輸ス斯ノ如ク其腹ヲ割キテ後寸陰ノ猶
豫ナク之ヲ醃藏スルガ故ニ其美味ヲ存スル
亦久シ又青魚ヲ填ムルハ其層毎ニ疎ニ塩
ヲ糝スレバ腐敗ノ憂ナシ其後一週間ヲ歷レバ
青魚ノ量積稍減ズルガ故ニ新ニ青魚ヲ増加シ
テ其量積ヲ充タシメ而メ其蓋ヲ封ズ其蓋ノ背
面ニ漁獵事務局ノ烙印ヲ受ケント欲セバ必
日間其桶ヲ開キ置カザルヲ得ズ
漁獵事務局ニ於テ漁人ヨリ報ズル所ノ青魚ノ

亦前年ヨリ九万四千六百五十二桶ヲ減シ漁獵
 事務局ノ烙印ヲ受クルノ數モ亦前年ニ較スレ
 バ五万七千三百桶ヲ減ズ又青魚ノ新鮮ナル時
 其地ノ人民之ヲ食スルノ數モ十万七千六百八
 十五桶ニシテ前年ニ比スレバ二千三百七十四
 桶ヲ減ジタリ故ニ一千八百五十六年ニ於テ青
 魚ヲ醃藏セル數ト其新鮮ナル片之ヲ食シタル
 數トヲ合セテ七十一万七千六百七十三桶トナ
 シ之ヲ前年ニ比スレバ十七万九千七百八十九
 桶ヲ減ジタリ

青魚ヲ捕ルルハ往古ヨリアリテ英國富饒ノ一
 端ナルベシ就中蘇格蘭ハ其利益ヲ得ルル最多
 シ蓋此等ノハ議事官ニ管スルヲ以テ漁人ノ議
 言フルヲ古代ノ議事官ノ廢置ヲ考究セバ其確證
 ヲ得ベク又世間ニ用井ル年代記ニモ此事ヲ載
 スルノ頗多シサルロバルトシバルト青魚ノ事
 ヲ記シテ曰クコニヲコニヲシトハ英倫蘇格蘭
國合シテ今ノ全英前クライイトノ海峡ニ於テ青
 魚ヲ捕ヘシニ漁艇ノ數六百隻漁人ハ四千ヲ以
 テ數フベク而シテ一年間ニ青魚ヲ他邦ニ輸出セ

青魚ノ事
 一
 一
 一

ル₁三千七百五十噸ノ重量ニ當リノ₁イフノ海
 岸ニ於テハ小地方アリテ其長₁十二里_{共同ノ}
 過ギズト雖_モ其地ニ屬スル所ノ漁艇ヲ數フレバ
 百六十八隻ニシテ漁人ノ數一千百二十人アリ
 而メ常ニ青魚ヲ輸出スル₁一₁万二千桶ニ下ラ
 ズ一千六百九十五年ニハ₁フ₁イフ₁海₁岸₁ノ₁ク₁レ₁イ
 ル₁ト稱スル小邑ヨリ青魚ヲ輸出セル₁一₁千₁四
 百桶ナリ₁フ₁ラ₁イル₁ス₁海₁峽₁及₁モ₁ル₁レ₁一₁海₁峽₁ハ其
 輸出ノ數精算シ難シト雖漸々皇霜ヲ經ルニ從
 ヒ益增加セル₁一₁亦疑ヲ容レズ₁コ₁ニ₁ラン₁見₁ニ₁以

来ハ議事官等塩税課當ノ法制ヲ設立シテ塩ヲ
 販賣スルニモ亦種々ノ規則アルヲ以テ容易ク
 塩ヲ得難キニヨリ遂ニ蘇格蘭ノ青魚徴ヲ衰微
 セシメントスルノ勢アリト
 當今蘇格蘭ニ於テ青魚ヲ捕ルニ用井ル器具及
 其漁人ノ員數甚多シ一千八百五十四年ノ時價
 ヲ以テ彼ノ器具ノ直ヲ合算スルニ五十萬磅_我
 我_ハ金_貨ノ_名ニ_テ凡_クニ_下ラ_ズ但_シ之_ヲ合_算ス_ル片_ハ
 八漁艇二十二万五千八百三十磅網三十万三千
 六百六十六磅索五万七千九百二十四磅ナリ蓋

蘇格蘭ニ用井ル漁艇ハアイスルヲフメン高ノ
漁艇數百隻ヲ合セテ一萬一千ノ數トナルベシ
而メ其漁人ノ員數ハ七千人ニ下ラズ又グレイ
トヤルマウスニ屬スル漁艇ノ數ハ三百隻ニシ
テ一隻二十人ヲ容レ各三櫓ヲ樹ツ此等ノ漁艇
ハ專マシケレル魚ト青魚トヲ捕ルニ用井ルナリ
又撻網ニテ漁スル時ニ用井ル快艇モ其數頗多
ク且小蝦ノ運輸ニ用井ル小艇モ亦五十隻ニ下
ラズエムコルロツト云ヘル人ヤルマウス及フ
ウマトフトニ都ノ漁具ヲ合シテ其價ヲ算シニ

十五万磅ニ當ルト云フ但ラウストフト都ニハ
漁艇ヲ有スル七十隻ニシテ一隻四十噸ノ荷
物ヲ運輸スベシヤルマウス及其近傍ニテ青魚
ヲ捕ルハ大約メシチエストルニ於テ之ヲ醃ニ
ス龍動其他ノ諸府ニ於テヤルマウスブロート
ルト云フハ即此魚ヲ斥スナリ又ハステイングス
及フアールクストーンノ二都ハ青魚ニ富マリ龍
動府下ノ住民等新鮮ノ青魚ヲ食フヲ得ルハ
此二都ヨリ運輸スルニ因ルナリ又カルデアガ
及スワレンシーノ二邑ニ於テモ青魚ヲ捕ルヲ得

バシ愛爾蘭ノ海岸モ亦青魚ニ富ムト雖之ヲ漁
セズ故ニ蘇格蘭ノ北部ヨリ輸入セザレバ其任
民青魚ヲ食スルコトナカルベシ

「ワイルチャルド」魚ヲ捕ル事

「ワイルチャルド」ハ其形状青魚ニ類似スル者ニシテ
嘗テ蘇格蘭ノ曲江ニ於テ之ヲ捕レリ一千八百
十六年マデハ「ワイルス」ノ海峡ニ於テモ亦其漁
甚多シ然レモ當今ニ至リテハ「ワイル」ノ
海岸ヲ以テ最盛ノ漁所トス其海岸ノ住民過半
漁獵ヲ以テ生計ヲナス而モ其魚具ノ多キヲ數

万磅ノ直ニ當ル又或田舎ノ新聞紙ニ「ワイルチャル
」魚ノ「ワイル」載スル者アリ今數件ノ抜萃シテ左
ニ揭示ス

當今「ワイルチャルド」魚ヲ捕ヘ得ベキノ地位ハ「ワイル
」ノ海岸ノミニシテ他ニ一モ記スベキ
モノナシ其之ヲ捕ルノ時節ハ數月間ヲ以テ限
トス故ニ此期限ヲ過グレバ其魚ヲ捕ルコト能ハ
ズ其始テ「ワイル」ノ海岸ニ近ヅクハ七月
ノ下旬ニシテ十月ニ至レバ其北ニ轉去スベシ
而モ其後稍時節ニ後ルコト雖尚數週間ハ之ヲ

捕ルヲ得ベシ爾後此魚何ノ處ニ轉去スルカ博物學者モ未^ク之ヲ詳ラカニスルヲ能ハズ然レモ英國ノ近海ニハ大西洋ヨリ來ルトス但其來ル片群集ノ疎密海岸ヲ距ルノ遠近等八年々異同ナキヲ得ズ故ニ漁人ハ其群集ノ疎密ト海岸ヲ離ル、ノ遠近トヲ鑑定スルヲ以テ最^モ緊要トス蓋^シビルチャルド^ル魚ノ大漁ハ屢^レ之^レアリト雖^モ未^ク其利益ヲ以テコルシウ^ラルヲ富マシメシヲ聞カズ^レビルチャルド^ル魚ヲ捕ル方法アレドモ之ヲ知ラザル人甚^ク多シ今之ヲ示サン夫^レビルチャルド^ル魚ヲ

捕ルニ二様ノ別アリ一ヲジ^ント謂フ此方法ヲ用井レバ之ヲ捕ル^ルト必^ズ多シ一ヲド^ライ^ウイン^クト謂フ此方法ハ既ニ述^ベタル青魚ノ漁法ト畧^シ同ジケレモ此^レビルチャルド^ル魚ノ漁獵ニ用井ル艇ハ其底稍深クシテ其舳方形ナリ而^{シテ}其櫓ニ桁ヲ加フルヲ常トス其能ク暴風雨ニ乘ジテ進行ノ快速ナルハ青魚ノ漁艇ニ異ナラズ蓋^シジ^ンノ方法ハ近來ノ發明ニシテ此方法ヲ用井ル^ルハ網艇小錨其他種々ノ器械ヲ要スル^ルト甚^ク多クシテ其直一千五百^磅ニ當ル^ルベシ故ニ此器械

一具ハ富豪者ニ非レバ之ヲ有スルコト能ハズ而
メ「ピル」チアルド魚ノ漁時至レバ常ニ漁人ヲ雇ヒ
其器械ヲ以テ此魚ヲ捕ヘシム又漁人等社ヲ結
ビテ之ヲ有スルコトアリ而メ其漁時ヲ過グレバ
其一具ノ器械ヲ解キテ各其一ヲ藏ス其器械富
豪者ノ有ニ屬スルモノハ漁人ノ給料甚廉ニシ
テ一週間僅ニハ「シル」リングノ比例ナリ然レバ
其漁ノ多キ時ハ此例ニアラズ但此魚ヲ捕ルニ
用井ル網ハ長サ二百二十「フ」アリムニシテ深サ十六乃
至十八「フ」アリムトス其一端ニハ「コ」ル之製ノ浮標

ヲ附ケ他ノ一端ニハ鉛製ノ秤錘ヲ附ケ漁艇ノ
稍大ナル者ニ載セテ「ピル」チアルド魚ノ常ニ群集
シ易キ處ニ至リ其群集セルヲ知レバ速ニ其網
ヲ下シテ其一群ヲ圍ミ又網ノ處々一小錨ヲ附
ケテ能ク之ヲ沈マシメ先水底ニ魚ヲ貯ヘテ徐
々ニ之ヲ捕ルナリ然レバ暴風雨ノ來ルニ遇ヘ
バ能ハズ嘗テ「ワ」ジシトニ於テ塩ニ乏シキコ
トアリ此時網ヲ水底ニ沈メ置キノルマン「ブ」ニ
船ヲ遣リ其地ヨリ塩ヲ積ミテ歸來セシニ「ピル」
チアルド魚ハ其網中ニアリテ尚死セズ又網中ニ

在ル魚ヲ採ルニハ「サツクシーン」ト称スル小網ヲ
用井ザルベカラズ此小網ヲ用井ルハ必ス夜間ニ
於テス何トナレバ此魚晝間ハ水底ニ潜居スル
ヲ以テナリ若其水底ニ潜居スル片之ヲ採ラン
トスレバ小網ヲ破リ去ルノ恐アリ但其魚ヲ採
ルノ順序ハ先魚ヲ採リ揚グル所ノ艇ヲ網ニ水中
ヲ言フモノノ邊ニ止メ置キ彼ノ小網ヲ以テ其魚
ヲ棧キ寄セ小網ノ艇ニ接スルニ至レバ左右ニ
把手ノハ籃ヲ持シ其魚ヲハレテ艇中ニ移スナ
リ此時「ルチヤルド」魚群集シテ其網中ニ銀光ヲ

故テバ漁人ノ欣喜極リナク皆一時ニ款乃ノ聲
ヲ發シ岩礁之カ為ニ鳴響ス是漁人ノ一樂事ト
謂フベシ又其魚ノ常ニ群集セル所ハ海水之力
為ニ其色ヲ變ズ其最知レ易キハ薄暮ヨリ一時
前トス故ニ其間漁人皆口ヲ閉ヂテヨク水色ヲ
窺ヒ其變スルト變セザルトヲ辨別セザルベカ
ラス蓋ニ百「ホグヘト」一「ホグヘ」ハ「我カ」石
ニ當ル「ルチヤルド」魚ヲ一網ニ打取スル片ハ漁
人等之ヲ豊漁ト云フ嘗テ一網ニ一千五百「ホグ
ヘ」トノ多キヲ打取セシ「ア」レ「レ」其水中ヲ游

一「ホグヘ」トノ多キヲ打取セシ「ア」レ「レ」其水中ヲ游

行スルヲ甚ク迅速ナルガ故ニ常ニ網ヲ脱シ去ル
 一多シ
 毎年秋ニ至レバピルチャルド魚輸出ノ數ヲ平均
 ンテ二万五千ホグヘードニ當ツ而メ散齋ノ時
 價ヲ以テ之ヲ算スレバ一ホグヘードハ大畧此
 魚三千尾ナリ然レモ其漁年々大ニ異同アリテ
 一ナラズ最盛漁ノ年ニ至リテハ一日ニ此魚ヲ
 捕ル一萬ホグヘードノ量ニ下ラザル一アリ
 ピルチャルド魚ヲ捕ヘテ後之ヲ醃蔵スル一下文
 ノ如レリ此魚ヲ外國ニ輸出セント欲セバ先ッ塩

一塊ト此魚一列トヲ雜ヘ之ヲ地窖ノ中ニ堆積
 シテ貯フル一一月間取り出シテ能ク洗滌シ之
 ヲ桶ニ填ムベシ然レモ其桶ヲ封緘スル前ニ方
 リ強ク壓定シテ其量積ヲ減ゼシメ新々魚ヲ取
 リテ添填シ更ニ之ヲ強壓スベシ爾後暫シテ又
 之ヲ強壓シ然ル後其桶ヲ封緘シテ運漕船ニ積
 ムベシ斯ノ如ク此魚ヲ再三強壓スルハ油ヲ
 生ヅテ其品質頗美ナリ且之ヲ暖國ニ運輸スル
 モ更ニ腐敗ノ患アルヲナシ但此魚十五ホグヘ
 ードヲ強壓スルハ油ヲ生ズル一ホグヘー

トナリ其油一噸ニテ四十二磅^上凡^ニノ直アルガ
 故ニ此魚ヲ捕ルノ目的一ハ油ヲ取ラシガ為ナ
 リ又此^レルチヤルド^レ魚ヲ洗滌スル時其槽水ノ面
 ニ浮ベル滓渣即^チ世ニ所謂ガル^ルマ^ージ^ハ常ニ石
 鹼製造人ノ買フ所ニシテ其價一噸ニテ十磅ノ
 比例ナリ又此魚ヲ醃藏スル時ニ方リ塩ヲ要ス
 ル^ノ甚^ク多クシテ魚一ホグヘ^ード^ニ塩八^ハバツセル
 一^ハツセル^ハ我^カ一^ニ下^ラス然^レモ此塩大半ハ溶
 洋^シ難^キ塩塊ヲ交^フ其價一噸ニテニ^シルリン
 グノ比例ニシテ通常田畝ノ肥料ニ用井ルモノ

ナリ蓋^シルチヤルド^レ魚ノ豊漁アルハ之ヲ醃藏
 スル者モ亦漁人ト共ニ利ヲ得ル^ノ甚^ク多^クシ加^フ
 ルニ國內一般ニ廉價ノ食料ヲ供スルニ至ル

鯧魚ヲ捕ル事

鯧魚即^チ蘇格蘭^ニ所謂ガル^ルグ^イレ^ハ世ニ下等魚類
 ヲ以テ論スル一品ナリ或ハ此魚ヲ以テ小青魚
 ト為ル者アレ^モ他ノ非難ヲ免^レズ是ヨリ前鮭
 魚モ猶^ホ誤説ノ世ニ行ハル^ノ既ニ久シク近年
 始^メテ其正論ヲ唱ヘ^タリ故ニ青魚ノ如キハ博物
 學者モ尚^ホ未^ダ之ヲ詳^クカ^ニスルニ暇アラ^ズ況^ヤ

鯉魚ニ於テラヤ然レド鯉魚ハ其形小青魚ニ似
タルヲ以テ世人之ヲ同種ト為ルモ亦宜ナリト
ス毎季新報第九十号ニ鯉魚ノコヲ載スル章ア
リ曰ク龍動府下ノ貧民等容易ク食スルヲ得ベ
キ魚類ハ青魚ヲ以テ第一トス故ニ其漁ノ多キ
ハ貧民等ノ欲スル所ナリ之ニ次グモノハ鯉魚
ニシテ毎年之ヲ當府内ニ輸入スルノ初ニ當リ
漁人ヨリ府知事ニ新味ヲ獻シ以テ寸謝ヲ表ス
蓋鯉魚ノピルリングスケートニ到著スル時ハ
忽龍動府下被隘ナル陋巷ニ至ルマデ之ヲ知ラ

ザル者ナシ實ニ電信機ヲ以テ之ヲ報知スルヨ
リ迅速ナリ
鯉魚ヲ食スベキ時節ハ殆三月間ニシテ此期限
ヲ過グレバ其味ヲ損ス其漁ヲ初ムルハ第十一
月ニ在リト雖就中其漁ノ最多キハ咫尺モ雜ジ
難キ暗夜或ハ深霧ノ夜ニ在リ往々一夜間ニ幾
千噸ノ鯉魚ヲ捕ルコアリ若過饒ナル片ニ至リ
テハ農夫之ヲ購求シテ田畝ノ肥料ニ供ス其價
一噸ニテ數ペンスノ比例ナリ
ホワイトベートト稱スル一種ノ魚アリ是モ亦

青魚ノ類ヲ以テ論スレバ其味頗美ニシテ世人ノ嗜ム所ナリ其形ハ甚小ニシテ銀色ヲ帶ブ蓋之ヲ捕ルハ常ニ夏月ニシテ其漁所ゼームス河水ノ鹹キ處ニ在リ又ハムブル河水ニ在リバル子ル氏ノ説ニフライルス海峡ニ於テクノーンスフルリヨリキンカルタインニ至ルノ間ハホワイトベート魚ヲ捕ルト最多シト然レバ其新鮮ナル者ヲ以テ龍動府下ニ運輸スルハダグリインウインチユ及ヒブラックウアルノニ地ヨリス而メ當府ノ貴族富豪等皆其味ヲ嗜ム又ベシナント

ニ云ハル者此魚ノ事ヲ説テ曰ク細末ノ麩粉ヲ以テ此魚ニ覆ヒ之ヲ油煎スルハ其味極メテ美ナリ然レバ之ヲ食スベキ時ハ僅ニ一月間ニメ或ハ第三月ニアリ或ハ第四月ニアリト

白肉ノ魚類ヲ捕ル事

鯊魚鱸魚大口魚リンダ魚ヘーク魚トルスク魚等ノ如キハ白肉ノ魚類ヲ以テ論スルモノナリ此種類ノ諸魚ハ皆其肉白クシテ其味極メテ美ナリ然レバ其肉ノ堅クシテ且片離シ易キト他魚ニ其吐ヲ見ズ而メ人ノ軀体ヲ滋養スルニ至

青魚ノ類ヲ以テ論スレバ其味頗美ニシテ世人ノ嗜ム所ナリ其形ハ甚小ニシテ銀色ヲ帶ブ蓋之ヲ捕ルハ常ニ夏月ニシテ其漁所ゼームス河水ノ鹹キ處ニ在リ又ハムブル河水ニ在リバル子ル氏ノ説ニフライルス海峡ニ於テクノーンスフルリヨリヨリキンカルタインニ至ルノ間ハホワイトベート魚ヲ捕ルト最多シト然レバ其新鮮ナル者ヲ以テ龍動府下ニ運輸スルハダグリインウインチユ及ヒブラックウアルノニ地ヨリス而メ當府ノ貴族富豪等皆其味ヲ嗜ム又ベシナント

リテハ前文ニ述ベタル魚類ニ優レリ元來此等
魚類ハ水中ニ住ム其多クシテ皆カデテ
類名ヲ下スベキモノナリ地中海ヲ除クノ外
諸海到ル處此種類ヲ見サルナク就中寒國ノ
諸海ハ最多シト云フ蓋其形ノ大小ヨリ其群集
ノ易キ地位并ニ其肉ノ人体ヲ滋養スル等ハ皆
皆ク人ノ知ラザルベカラザルナレト此書楮
事ニ定限アレバ盡舉ゲテ論ニ難シ故ニ此魚類
魁ナル鰵魚ヲ以テ他ヲ推求スベシ但ニ其漁法
醜法調理法等ハ此類ノ諸魚皆同シ

鰵魚ニ置メル地位ハニウフランドト其
北並米利加處々ノ海岸ニアリ而メ其販賣ハ多
ク佛國人ト米國人トノ間ニ行ナル就中北亞
米利加ニ於テハ鰵魚ヲ捕ルル最多クシテ英國
モ絶エズ其供給ヲ得ルト雖皆新鮮ナルモノニ
非ズシテ大抵醜穢セルモノナリ實ニ此魚ハ英
米貿易ノ最要品トスルニ足ル英國ニ於テ鰵魚
及「リング」魚ヲ捕ルル地位ハ蘇格蘭ノ北部ニシ
テ其他愛爾蘭及英倫モ亦處々ノ海岸ニ於テ此
魚ヲ捕レ其品質一等ヲ下ルナリ夫鰵魚ノ性

ハ常ニ餌ヲ貪ル_レ其_レ故ニ漁人等其群集スル
地位ヲ知ル_レ片ハ何ノ餌料ヲ投スルモ之ヲ獲ガ
ルハナシ然レ_レ此魚ハ水ノ深キ處ヲ擇ビテ水
面ヲ下ル_レ二十五尋ヨリ四十尋ノ間ニ游行ス
甚シキニ至リテハ五十尋ノ深處ニ住ム_レアリ
但_レ常ニ餌食ト為ベキモノハ小魚昆虫蟹類螺類
ナリ故ニ之ヲ捕ルニハ必_ズ鉤ト線トヲ用井ザル
ヲ得ズ就中コルニウ_レルノ海岸ニテハ所謂「バ
ルトル」ヲ用井ルヲ以テ通例ノ漁法トスバルト
ルハ一ノ長線ニシテ屢々ニ鉤ヲ附ケスイトト

云_レル短キ小線ヲウ_レテ之ヲ固定ス一スイトノ
長六フ_レトニシテ之ヲ結ビ附ル間ハ十二フ_レト
トトス以テ甲ノ鉤トキノ鉤トノ相連結スルヲ
防グナリ長線ノ一端ニ小錨ヲ附ケ他ノ一端ニ
浮標ヲ施シ以テ之ヲ水流ニ横タヘ六時間計ヲ
過ギテ之ヲ拽ク或ハ漁人等長線ヲ用井ス手ツ
カラ小線ヲ垂レテ鰈魚ヲ釣ル_レアリ其小線ニ
ハ二鉤ヲ附クレ_レ其相連結ヒン_レテ恐_レ強キ
鉄線ヲ以テ之ヲ隔テ又稍鉤ヲ離レテ線端ニ秤
錘ヲ附ク_レ以テ鉤ヲ水底ニ沈マシム_レ若_シ其餌水底

一ノ百 漁法考 一ノ百

ニ沈マザレバ鰈魚之ニ近ヅクヲ得ズ但漁人一員ニテニ線ヲ垂レ一ハ右手ヲ以テシ一ハ左手ヲ以テス

當今ニ至リテハグウスストリート海峽ノ名或ハフ

ローアイランド島ノ名ノ遠キヲ厭ハズ漁船ヲ駛

シテ鰈魚ヲ捕ヘ而メ之ヲウエルドスマックト稱ス

ル小船ニ積ミテ直ニ龍動府ニ運輸スウエルドス

マックハ船底ニ魚ヲ藏スル處アリテ其中ニ魚ヲ

貯ハフル片ハ長ク其生ヲ保チ其味始メテ捕ル

モノニ異ナラス蓋其艇ノ英國ニ用井ラルハ

一千七百年代ノ初メニシテ之ヲ創製セシ地ハハ

ルウチヲ嚙矢トス其發明セシ人ハピルソンス

グートノ魚商ミストルサウンドルスノ祖先ナ

リ故ニ一千七百十五年内乱ノ起ルニ當リ軍兵

ヲ送ルニ間此艇ヲ用井シモノアリ是衆人ノヨ

ク傳聞セル所ナリウエルドスマック艇ヲ以テゼー

ムス河ヲ下ルニハ必スグレーフセントノ邊ニ至

ルヲ限トスベシ何トナレバ此邊ニ至ルマデハ

河水稍鹹クシテ其藏魚ヲ生活セシムルニ足ル

ト雖之ヲ過ダレバ其水漸塩分ヲ脱スルヲ以テ

忽其魚ヲ死セシムレバナリ
英國ノ海岸ニ於テ捕ル所ノ鰹魚ハ大約醃藏シ
テ市場ニ運輸ス但_レ其醃法ハ次条ニ掲グルガ如
シ此魚ヲ捕ルキハ直ニ其鱗ヲ擦去シ其腹ヲ剖
截シ海岸ニ來レバ縱割シテ其体ヲ披キ其脊骨
ノ一部ヲ切り清潔ナル塩水ヲ灌ギテ其血分ヲ
去リ次デ其水ヲ乾カシテ長桶ニハレ魚ト塩ト
ヲ雜ヘ其積テ桶中ニ満ツルニ及ビテ其上ニ重
キ石ヲ置キ強ク之ヲ壓シテ魚ト塩分トヲ混和
セシム暫シテ桶中ヨリ取り出シ再之ヲ洗ヒ且

擦シ然ル後數尾ヲ以テ一層ト為テ水氣ヲ乾カ
シ次デ之ヲ放散シ每尾日光ニ曝シ空氣ニ觸レ
シメ遂ニ之ヲ堆積シテ漁人ノ所謂「フロム」ノ
魚体ニ露ハルヲ待ツ是ニ於テ始メテ其醃法
ヲ終ルト云フヨル_ル州ニ於テハ更ニ醃法
ヲ改正シ常ニ此魚ヲ乾カスニ方罫狀ノ床ニ
置クナリ然ルキハ其乾ク下甚速ニシテ塵埃ニ
穢ルル_ル亦寡ナク且ツ人ノ誤リテ踏蹴スルヲ避
クベシ蓋魚ヲ以テ地上ニ曝セバ此弊ナキヲ得
ズ

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一千八百五十五年蘇格蘭ノ海岸ニ於テ鯊魚及
 リング魚ノ漁事ニ因リ漁業事務局ヨリ議事官
 ニ建言シテ曰ク當年ノ漁ハ一千八百五十四年
 ニ比スレバ其多キ一萬ポンドレドウィー卜（一萬石）
 ノ名凡ノ我々十二貫六（一萬石）餘ナリ一千八百五十四年ノ
 漁ト雖モ之ヲ前年ニ較スレバ若干ノ増加アルベ
 シ但、一千八百五十四年西班牙ニ運輸セル鯊魚
 ノ數ハ一万四千五百二十（一萬石）ポンドレドウィー卜ノ
 重量ニ當ルベシ夫、鯊魚ヲ捕ルハ其數青魚ノ如
 ク夥多ナラズ且、人手ヲ要スル一モ亦寡ナシト

雖、其漁ノ貴ブマキト最、上等ニ位セリ而、其他
 邦ニ販賣スルモ亦容易ナレバ其蒙々ノ海岸ニ
 アリテ輸入税ノ高キニヨリ英國ノ醜藏鯊魚モ
 之カ為、ニ輸入シ難シ蓋、濕氣多キ土地ハ鯊魚（一）
 シグ魚等ヲ醜藏スルニ最、害アレドモ英國ハ幸
 ニ此害ナシ然ルニ之ヲ他邦ニ販賣シ難キハ遺
 憾ノ甚シキニ非ズヤ若、他邦ニ販賣シ易キ片ハ
 英國モ亦從ヒテ此魚ヲ捕ヘテ醜藏スル一更ニ
 多カルベシ鯊魚ヲ捕ルニハ英國ノ海岸ヲ去ル
 一甚、遠ク殊ニ佛國ノ漁人大ニ其船ヲ列子テ變

尔蘭及ニアフトアイルランドノ邊ニ来リテ盛ニ此
 魚ヲ捕フ蓋佛國魚市場ニアリテ專其價ヲ有ス
 ルモノハ獨此鯊魚アルヲ以テナリ英國ノ漁人
 モ貿易ニ自由ノ權アルヲ以テ佛人ノ如ク達漁
 ヲナサバ其久シク海中ニ漂泊スルニ因リテ遂
 ニ精練ノ航海者ト為ルベシ

一十八百五十六年ニ方リ蘇格蘭ニ於テ捕ル所
 ノ鯊魚及リング魚ヲ統計セル表アリ其表ハ原
 来漁獵事務局ヨリ發兌ヤルモノナリ之ヲ閱ス
 ルニ醃藏シテ乾カシメタル者其數十一万五百

四ポンドレットウイトノ重量ニ當ルベク又塩汁
 ニ漬シタル者其數六千六百四十二桶ナルベシ
 又他邦ニ輸出セル總數ハ二万九千六百二十九
 ポンドレットウイトノ重量ニ當ルベシ之少前年
 一千八百ト比較スルニ醃藏シテ乾カセル者ハ
 三千六十五ポンドレットウイトヲ減スレバ塩汁
 ニ漬セル者ハ三百五十二桶ヲ増加ス而メ他邦
 輸出ノ總額ハ四百七十五ポンドレットウイトヲ
 増加セリ又鯊魚及リング魚ノ新鮮ナル片之ヲ
 食スルノ數五万九千九百八十七ポンドレットウイト

トノ重量ニ當ルベシ之ヲ前年ニ比スレバ其
減ズル一三千五百五十二ポントレットウイトナ
リ此新鮮ナル者ノ數ト醃藏セル者ノ數トヲ合
算スレバ一千八百五十六年ノ鰵魚及ヒリング魚
ノ漁八十七万四百九十一ポントレットウイトノ
重量ニ當レル數ニシテ六千六百四十二桶ヲ充
タスベキ數ナリ之ヲ前年ニ比スレバ重量ヲ以
テ算スベキ者鰵魚ノ新鮮ナル者或ハ六千六百
ハポントレットウイトヲ減ズレバ桶數ヲ以テ計
ルベキ者塩汁ニ漬ハ三百二十五桶ヲ加フ一千

八百五十六年ノ漁ヲ精算スルニ至リテハ今述
ブル所ノミナラス他ニ又漁獵事務局ノ統計ヲ
漏ル、者甚多ケレバ此數モ亦加入シテ算セザ
ルヲ得ズ之ヲ算スル片ハ自國ノ漁所ヨリ鰵魚
及ヒリング魚ヲ得ル一四百萬尾ト為ベシ愛爾蘭
ノ曲海モ大ニ鰵魚ニ富ムト雖モ其住民漁シテ商
品トセズ又郡威國海岸モ亦鰵魚ノ諸類盛ニ群
集スル地位ニシテ其處々ノ曲海ハ此魚ヲ捕ル
ニ最便宜トス博物學者常ニ此魚ヲ以テ動物繁
殖シ易キ例トス此魚ノ卵ヲ散ズルハ其數九百

二
年
八
月
二
日
魚
類
上
語
大
部
自

三十八万四千ヲ以テ計フベキ一問アレバナリ
 キウイールト云ヘル者鰵魚ノ事ヲ論シテ曰ク此
 魚ノ肉ハ其質堅クシテ其色白ク其香味最美大
 ルヲ以テ大ニ人ニ貴バル而メ其香味ヲ存スル
 時間他ノ白肉ノ魚ニ比スレバ甚長キヲ以テ其
 運輸ニ幾月ヲ費ストモ更ニ腐敗ノ憂ナク宇内
 列國遠近ヲ問ハズ皆其美味ヲ食スルヲ得ベシ
 白肉ノ魚類中ニテ鰵魚ノ最盛ナル貿易ニ次
 者ハ鱸魚及大口魚ニシテ是亦其新鮮ナル片ハ

最人ノ嗜好スル所ナリ又乾キテフィナンシノ名
 ヲ得テ魚市場ニ来ル時モ尚人ノ賞味ヲ失ハズ
 夫鱸魚ハ英國諸海列ル處一トシテ之ニ富マサ
 ルハナク其漁法ハ鰵魚ノ如ク主トシテ餌線ヲ
 用井ルト雖深海ニアリテ之ヲ捕ルルハ捕網ヲ
 用井ルヲアリ極小ノ鱸魚ニ至リテハ蘇格蘭ノ
 曲江ニ於テモ亦之ヲ得ベシ英國漁村ノ住民等
 ノ鱸魚ヲ燻ベ或ハ之ヲ醃藏スルハ其方法最簡
 易ナリ今其燻法ヲ説カン先其腹ヲ截リテ其臟
 腑ヲ出シ之ヲ煙筒ノ方隅ニ懸ケ泥炭ノ火氣ヲ

藉リテ普ク之ヲ燻ア然レモ其數二百尾乃至四
 百尾ナラバ通例ノ燻邊ニ於テ麵包ヲ製スル釜
 ヲ以テ之ヲ燻アルヲ得ベシミストルゼトムス
 ウルソノ日ク蘇格蘭ニ於テハ鱸魚ノ販賣益盛
 ニ行ナハレントスルハ勢アリ既ニ近年ニ至リ
 テハ處々ニ宏壯ナル醃屋ヲ設ケ許多ノ漁人ヨ
 リ鱸魚ヲ購求セリ而シテ其住民小裝置ニテ鱸魚
 ヲ醃藏スル所ハ僅ニ數時間ヲ費スノミ故ニ薄
 暮ニ捕ル所ノ鱸魚ハ翌朝ニ至レバ數里ヲ經テ
 遠ク市場ニ在ルベシ世ニ所謂「ナン」見上ニハ

大概小鱸魚ナリ其色嫩白ニシテ稍黄ヲ帶ブ然
 レモ鱸魚ノ大ナル者ハ盛大ナル貿易場ニテ之
 ヲ醃藏ス其製法ハ遠隔ノ地方ニ運輸スルモ毫
 モ腐敗セザルヲ專一トスト蘇格蘭ノ市場ハ鱸
 魚ヲ陳列スルノ常ニ甚多クシテ零賣ノ以テ生
 計ヲ營ム者數百ヲ以テ數フベシ而シテ其價一時
 ハ甚廉ナリト云フ現今ニ於テモイデアイン^グ山^グ
 府ノ如キハ其蕪價ナルヲ從前ノ如シヨテテ
 鱸魚諸類ノ總稱ニテノ類名ヲ下スベト者ハ尋
 常ノ鱸魚ヲ首トシテ「ルスコ」^魚一^種ノ鱸魚

魚類書
 魚類書
 魚類書

魚ノ種類ノ一斑ヲ示スルニハ、
大口魚、コトルフィシ魚、大口魚、
鰈魚、ヘトク魚、リング魚、バルボット魚、
三鬚ノロッキ、リング魚、トルスリ魚等ナリ。總テ此等ノ魚種ハ
一トシテ美味ナラザル者ナン。

扁魚ヲ捕ル事

此目魚一種以下目魚ト書シ、
ハット魚、此目魚、ブリル魚、グア魚等ノ如クハ皆扁
魚ノ類ヲ以テ唱フルモノニシテ、其味最賞美ス
ベシ。此等ノ魚ハ專英國海岸ニ於テ捕ヘ得ベク

而メ其漁ニハ、撈網ト餌線トヲ用井ルト雖就中
撈網ハ漁法ノ最簡易ナルモノニシテ、扁魚ヲ捕
ルニ宜シ。蓋扁魚ハ多ク海邊ノ深處ヲ擇ビテ游
泳スレバナリ。夫撈網ノ形状ハ大囊ノ如クニシ
テ、其一端擴張スベシ之ヲ漁艇ノ舳ヨリ海中ニ
下シテ、扁魚ノ網中ニ入ル片ハ徐々ト之ヲ引キ
揚グルナリ。

此書緒數ニ定限アレバ、扁魚ノ種類ヲ詳説スル
不能ハズ。故ニ惟其魁タル者ヲ舉グ。其魁タルモ
ノハ、即此目魚ニシテ、其肉香氣ヲ帯ビ且味ノ美

ナルヲ以テ大ニ人ニ嗜好セラル而メ其調理法
ニ至リテハアビシウスノ時代ヨリユデ及キツ左
子ル此三名ハ皆調理ニノ時代ニ至ルマデ調理
家逸ニ世ニ出テ益精巧ヲ加ヘ終ニ現今ハ極精
ノ方法ヲ用井ルニ至レリ

ハミルトン氏ノ著ハセル英國漁獵書ニ曰ク此
目魚ハ長一フー卜六インチ乃至ニフー卜ヲ以
テ常トス而メ其重量ハ四磅乃至十磅ヲ以テ常
トス然レ氏或ハ二十磅或ハ三十磅或ハ七十磅
甚シキニ至リテハ一尾百九十磅ニ當ルベキモ

ノヲ捕ル丁間之アリ但シ其重量ノ増加スルニ從
ヒ其長モ亦異ナルハ固ヨリ論ヲ俟タザル所ナ
リ年々此魚ヲ以テビルリングスゲート此地ハ
内ニアリテ諸方ヨリ魚類ニ運輸スル丁常ニ八
ヲ運輸スル所ノ市場ナリニ運輸スル丁常ニ八
萬七千九百五十八尾ヲ以テ數フベシ此ニ由リ
テ考フレバ龍動府下ニ於テ此魚ノ販賣シ易キ
丁瞭然タルベシ從來和蘭陀ヨリ龍動府内ノ魚
市場ニ運輸スル所ノ比目魚ハ一年令ニテ其價
八萬磅ニ當ルベク而メ其味ノ美ナルニ至リテ
ハ他ノ比目魚ノ及ブ所ニアラズ一十八百四十

一十八百四十

三年マアハ比目魚ノ運漕船一隻ニテ大磅ノ税
 ヲ課スレモ近年商品税法ヲ改正セシヨリ其税
 モ亦減少セリ但運漕船一隻ハ比目魚ヲ積ム
 百尾乃至百五十尾ナリ英國北海ハ比目魚ニ
 シラルクニアイランド名島セトルド名島アイラン
 ド名島モ亦然リアールス海口名島ヒルウ名島クノルザン
 ブルランドダルハムヨルクノ海岸ニ於テハ大
 ニ之ヲ捕ルナリ就中ドリルバング及ウエルバン
 グノシルウエルビ名島ノ海岸ハ最比目魚ニ富メル處
 ニシテ其漁用ニ供スル所ノ艇數百隻ヲ以テ數

フベシ
 龍動府内ノ魚市場ニ於テ販賣スル所ノ比目魚
 ハ大半和蘭陀ノ産物ナリ而メ同國ニ於テ此魚
 ヲ捕ルハ早春ヨリ始ムレモ蘇格蘭英倫ノ海岸
 ハ同時ニアラズ蓋其利ヲ得ル名島甚寡ナケレバ
 ナリ元來比目魚ハ春季ヲ過グル名島愈久シケレ
 バ水中ニ住ム名島愈深シ是時ニ當リ之ヲ捕ル
 ニハ餌線ヲ用井ザルベカラズ然レモ秋氣至レ
 バ其漁ヲ為ル名島能ハズデウンシャルノ海岸或ハ
 トウルノ海岸ニ於テハ佛國ニ面スル地皆比目

魚ヲ始メ其他扁魚ノ類ニ富ムト甚シト謂フベシ就中鞋底魚ノ如キハ其重量五磅乃至九磅ニ當ル者ヲ捕ヘ得ベシ英國ノ北方ニ於テハ鋪魚ヲ捕ルト極メテ多シ但其漁法ハ擔網ノ方法ニ類スレ^ル此魚ハ固ヨリ扁魚ノ類ニ屬セズトクトル、パール子ルノ説ニ此魚ハ鱧ノ一種ニシテ^ルールスノ海峡ニ於テ大ニ之ヲ捕ヘ得ベシ就中^ハパス及メ^ルノ近傍ヲ以テ第一ノ漁所トス而メ其之ヲ捕ルハ常ニ網ヲ用井ルト雖^モ海中ノ深處ニアリテ鱧魚ノ餌線ニ掛ルト屢之^レアリ暮春ニ

方リテイディングブルグノ魚市場ニ鋪魚ヲ運漕スル^ル日々ニ絶エズ其府下ノ住民此魚ヲ嗜好スル^ル甚シケレバ一週間に之ヲ售賣スルト^リ荷車十二輛ニ積ムト雖^モ尚^ホ餘^リアリト一千八百五十年ニ方リ龍動府内ノ魚市場ニ鞋底魚ヲ運輸スルト^リ九千七百五十二萬尾ニ下ラス比目魚ハ其數二千五百噸ノ重量ニ當ルベク而^{シテ}メ^グス^フ魚^フロ^ウン^ドル^ル魚ノ如キハ其數合シテ九万一千九百五十磅ノ重量ニ當ルベシ此ニ由リテ觀ルニ龍動府内ハ扁魚ノ類ヲ販賣スル

百和全書 海魚類 青魚
一甚盛ナルベシ蓋國內餘ノ都府ト雖其住民多
クハ富商ニシテ新鮮ノ美魚ヲ食スレバ其府内
ニ於テ扁魚ノ類ヲ販賣スルノ數龍動ヲ以テ推
知スベシ

青花魚ヲ捕ル事

前ニ説示スルガ如ク青花魚ノ主タル漁所ハノ
ルフアルク海岸ノグレートヤルマウスニシテ當
地ノ繁榮スル所以ハ專此漁ニ曰レリ一千八百
五十三年ニ方リ此漁用ニ供スル艇數九十餘隻
ニシテ僅二月ノ間ニ青花魚ヲ捕ルノ多キ三萬

磅ノ直ニ當ルヘシ但漁艇魚ヲ積ミテ海濱ニ歸
帆スレハ評價者ヲ集メテ之ヲ散鬻シ然ル後此
魚ヲ龍動魚市場ニ運輸スル一甚迅速ナリト云
フ元來青花魚ハ餌食ヲ貪ル一最甚シク其成長
モ亦從ヒテ速ナリト雖其形体ハ固ヨリ大ナラ
ズ第五月六月ノ頃ニ捕ル所ノモノハ其香味最
美ニシテ早春或ハ秋季ニ獲ルモノニ優レリ而
メ其卵ヲ散スルハ第六月ニシテ一尾ノ北魚五
十四萬ノ卵ヲ産ス又此魚群集シテ海中ニ游泳
スル片ハ之ヲ捕ルノ巧術ナシト雖其海岸ニ近

バク時ハ或ハ網ヲ下シ或ハ釣線ヲ垂レテ幾百
萬ヲ捕ヘ得ベシ然レモ其得ル所ノ數ヲ以テ網
線ヲ通ル、者ニ比スレバ其畸零ニ過キズ實ニ
網線ヲ道ル、者ノ數ニ至リテハ幾百億ナルヲ
知ラズ

青花魚ヲ捕ルノ方法ハ大概青魚ノ漁法ニ異ナ
ラサレドモ他ニ又ニ様ノ方法アリ其一ハ網眼
ノ小ナル長網ヲ用井ルナリ此網ヲ以テ魚ヲ圍
ミ之ヲ網眼ヨリ放取シテ淺キ籃ニ入レ若ハ「ガ
ラウン」ト子「ト」ト稱スル一種ノ網中ニ入レ以テ

海濱ヨリ引キ寄ス其一ハ「ト」レ「リ」ングト稱ス
ル釣ト線トヲ用井ルナリ此方法ハ最モ愉快ナル
水遊ニシテ之ヲ為ルノ順序ハ次ニ述アルカ如
シ夫青花魚ノ性ハ小魚ヲ捕ルニ用井ル所ノ餌
ヲ以テスレハ其種如何ヲ論ゼズ皆之ヲ食スレ
モ就中「ラス」クト稱スル者ヲ以テ餌ト為ベ「ン」フ
スクハ青花魚ノ脊ノ尾ニ近キ部分ノ肉片ヲ謂
フ此肉片ハ血分ヲ備フルニ回リ青花魚大ニ之
ヲ嗜好ス甚シキニ至リテハ赤キ草片ヲ用井或
ハ深紅ノ毛布ヲ用井テ之ヲ換ル「ト」屢アリ鄙諺

二深紅ノ表衣ヲ稱シテ青花魚ノ餌ト云フハ蓋
 此ニ出ルナラン青花魚ヲ捕ル片ハ其漁艇ニ帆
 ヲ懸クルヲ以テ風ノ稍烈シキヲ要ス此ニヨリ
 青花魚風ノ語漁人ノ間ニ行ハルニ至レリ青
 花魚ノ餌線ハ稍短カシト雖鉛製ノ秤錘ヲ以テ
 其端ヲ水中ニ沈マシム而メ其魚ノ多キ片ハ二
 人ニテ一日ニ之ヲ捕ルト五百尾乃至一千尾ニ
 至ルベシ烈風ニ方リ迅速ニ漁艇ヲ駛ラス片モ
 猶其餌鈎ヲ吞ムノ多キト實ニ怪ムヘン蓋青花
 魚餌鈎ヲ以テ水中ニ漂流セル者トナシ其流動

スルヲ見テ之ヲ吞ムナラン故ニ天氣ノ驟腕夕
 ル片ハ大ニ此漁ニ宜シ

介蠱ヲ捕ル事

介蠱ハ英國人民貴賤貧富ヲ論ゼズ皆大ニ嗜ム
 所ニシテ就中蝦蟹、蜘蛛、牡蠣、マス、タル介海扇、小
 甲香小蝦ノ如キハ常ニ之ヲ食スルナリ英國魚
 市場ニ於テ販賣スル所ノ蝦ハ大半ゼームスス
 トリート街ノミストルサウンドルノ商鋪ヲ經
 テ來ルモノニシテ其商鋪ニハ每晨那威佛蘭西
 チヤン子ルアイラント島ノ漁人ヨリ大ニ運輸セ

リ故ニミストルサウンドルハ一秋ニ銀ヲ散
スル一四萬磅ノ直ニ當ルベシ但其總額ノ半ハ
那威ノ產物ニ係ル介蟲ノ運漕船ハ其製造左ノ
如シ其船中ニ區域ヲナシ一區ニハ銀幾百箇ヲ
容レ一區ニハ刺站又一區ニハ蟹ヲ容ル而メ此
介蟲ヲ船ヨリ揚ダレバカルフト稱スル箱ニ容
レテ魚市場ニ運輸ス其魚市場ニ來ルニ至リテ
モ尚其生ヲ絶セズカルブハ介蟲運輸ノ為ニ造
リタル穿孔ノ大櫃ナリフルクニ一及セトラン
トヨリバ亦銀ヲ以テ龍動魚市場ニ運輸ス英國

海軍省官員ミストルテ、イー、シモンツ愛爾蘭
漁獵ノ事ヲ以テ小本新聞紙ニ載ヤテ曰ク宇内
列國一モ愛爾蘭ノ如ク銀ニ冒メルモノナク且
其品質ノ美ナルニ至リテモ他邦ニ其比ヲ見ズ
故ニ當國ニ於テ其漁法ヲ精巧ナラシメ加フル
ニ小銀ヲ捕ヘザルノ方便ヲ施ス茂ハ他邦ノ運
輸ヲ待タズ獨愛爾蘭ノ產ヲ以テ全英國ノ魚市
場ヲ充タスニ足ルベシ龍動魚市場ニ於テ銀ノ
販賣盛ニ行ハル、景況ヲ云ハンニ當府ノ港灣
ハ固ヨリ論ヲ俟タズ其近傍ノ港灣モ亦頗ニ大

ナルウェルドスマツカ^{上ニ見エタリ}魚類ヲ出シ
銀ヲ購求シテ龍動ニ歸來ス其價十二尾ニテ四
シルリング乃至六シルリングノ時價ナリ又英
國西岸ノ處々ニ於テ一週間ニ銀ヲ捕ル^{其數}
一萬ヲ以テ計フベシ然レ^ニ西岸ノ漁人銀ヲ運
輸スルノ勞ナクシテカヲ漁事ニ專ラニスル片ハ
必^ニ此數ニ倍センビルリングスゲート^{上ニ見エニ}於
テ其原賣ノ時價ハ大抵一尾一^ニシルリングノ比
例ニシテ一千尾五十磅ノ直ニ當ルベシ然レ^ニ
海風烈シクシテ激浪起リ或ハ波濤ノ頻ニ収ル

時ハ其漁ノ甚^ニシキヲ以テ其直常ニ一倍シ或
ハ二倍スル^ヲアリ當今西岸ニテ獲ル所ノ銀ハ
或ハ馬車ニ載セ或ハ帆船ニ積ミ又瀛車ニ移ス
ニ因リテ未^ニ龍動^ノ府内ニ達セザルニ其死スルモ
ノ幾百尾ヲ以テ數フベシ斯^ノ如ク死スル片ハ
商品ト為シ難ク又毀損スル者ノ如キハ最^モ廉價
ヲ以テ僅ニ賣却スルヲ得ベシ上文^ニ記スル如
ク愛國ノ銀ハ其品質最^モ美ナリト雖^モ龍動ニ達ス
ル片ハ其路程ノ長キヲ以テ美味ヲ存スル^ニ能
ハズ加フルニ不虞ノ危難ニ遇フ^ニ屢^ニ之^ヲアリ譬

魚類篇上 卷之八

バ船中ニ在リテ大雷ニ逢フキハ大半之カ為ニ
死シ或ハ其近邊ニテ巨礮ノ放聲アレバ亦之カ
為ニ死スルモノ多シミストルスコウルノ説話
ニ或夜ブライマウスニ築キタル砲臺ノ下ニ接シ
ノ鍛ノ運漕船ヲ泊セシキ他邦ノ軍艦來港セル
ヲ以テ其砲臺ニ於テ安著ノ祝砲ヲ放チタレバ
之ガ為ニ鍛ノ死スルモノ數千ヲ以テ數フベシ
ト又運漕船ニ在ル中海面頃ニ靜定スル中ハ亦
鍛ニ宜シカラザレバ其船ノ搖動ハ更ニ害ナシ
故ニ不虞ノ危難ニ遇ハザレバ一月間ハ飢食ナ

キモ其生ヲ絶ヒズ但池沼ノ鍛ノ如キハ雷鳴砲
聲等アリトモ其生ヲ害スルノ患ナシ又那威ヨ
リ龍動府内ニ運輸スル所ノ蝦ハ常ニ螺旋装ノ
ウエルドスマック^上見ニ積ムガ故ニ五百里ノ路程
ヲ過グルト雖其間不虞ノ危難ニ罹リテ死スル
下甚稀ナリ然レバ帆船ヲ以テ運輸スル中ハ其
死スルモノ必數千ノ多キニ至ルベシ愛國ノ鉄
道事務局ニアル所ノ荷物統計表ヲ閱スルニ一
千八百五十四年カルウエ^上驛ヨリ内地ノ鉄道ヲ
過ギテ龍動ニ達セル鍛ハ其數一百一噸六ホソ

トレットウイートト見ユノ重量ニ當ルベク加フル
ウエルド、スマツク船ヲ以テ舊府ニ運輸スルモノモ
亦其數ヲ知ラス

尋常ノ蟹ハ固ヨリ世人ノ知ル所ナレバ爰ニ贅
セズ唯其奇異ナル者ヲ舉ゲテ説示セン凡蟹類
ハ大抵其時節至レバ全ク石灰質ノ堅甲ヲ脱シ
テ軟甲ニ換フ而メ其脱換再三ニ至レハ其体始
メテ真ノ堅甲ヲ備ヘテ其生ヲ終ルマデ更ニ之
ヲ脱スルヲナシ蓋脱換ノ時節至レバ其体漸次
ニ膨脹シ竟ニ表部ノ大甲其胸ヲ離レ其足筋軟

質ヲ帶ビテ収縮ス斯ノ如ク一旦蹠跚不具ノ形
態ト為リテ疾ク横行スルヲ能ハス運動スルニ
カナク抵抗スルニ勢ナシト雖モ二十時間若ハニ
十時間ヲ経レバ薄甲再上其体ノ諸部ヲ覆ヒ爾後
數日ニ至リテ始メテ故ノ形体ニ復ス但脱換ノ
時并ニ散卵ノ期ニ於テハ一時其味ヲ失ヘドモ
此期ヲ過グンバ其味又舊ニ復ス総テ蟹類礁岸
ノ凹穴ニ隠レ或ハ其罅隙ニ潜ムトハ干潮ヲ待
テ鉄鉤ヲ用ヅベク又水中ニテ四尋乃至五尋ノ
深處ニ横行スル中ハ環ニ肉屑ヲ附ケ或ハ籃ニ

肉片ヲ入レテ水中ニ下スミン斯ノ如クニルテ
 英國海岸ノ漁人等皆年々大ニ之ヲ捕ルナリ
 牡蠣ハ國內一般ノ食物ニシテ其味頗美ナルモ
 ノナリ而メ其仔ヲ産スルハ常ニ夏月ニシテ其
 成長モ亦夏季ニアリ其仔初メハ畜類ノ脂班ノ
 如クニシテ巖礁其他種々ノ固質物ニ附著スレ
 氏多クハ母介ノ牡蠣ト親接ス漸巨塊ト為リテ
 群集シ遂ニ海濱ヲ蓋フニ至ル故ニ世ニ牡蠣濱
 ノ稱アリ牡蠣ノ仔ハ産シテ後一年半ヲ過クレ
 バ頗成長シテ食フニ是時爬網ヲ以テ之ヲ捕

ハ直ニ魚市場ニ運輸スルアリ或ハ潮ノ達スル
 所ニ坑穴ヲ鑿テ其牡蠣ヲ其中ニ移シテ充分肥
 大ナラシメテ後之ヲ運出スルアリ蓋其方法ハ
 羅馬人ノ我英國ヲ領シテヨリ今ニ至リテ尚存
 スルト雖直ニ魚市場ニ運輸シテ其味ヲ損セザ
 ルモノニ如カズ人為ヲ以テ坑穴中ニ蓄フル所
 ノ牡蠣ハ稍其味ヲ變ズレバナリ都テ魚類ハ同
 品ト雖其産所ヲ異ニスルハ人ノ賞味モ亦從
 ヒテ厚薄ナキヲ得ズ牡蠣ノ如キハ殊ニ然リ譬
 バ龍動ニ於テハコルチエストル及ヒミルトン産ノ

者ヲ以テ最上ノ品トシイテイギリス政府ニ於テハ
 ハンケンシーニウハグイン及ヒカレストンパン
 産ノ者ヲ嗜ム極メテ其シクダブリン府ニ於
 テハカルリンフールド及ヒポウルヅデー産ノ者
 ヲ最モ賞味ススウアンシーノ如キモ牡蠣ノ美品ヲ
 産スルニ因リ其名頗ル世ニ高シ英國ニ於テハ牡
 蠣ノ販賣甚盛ニシテ其位鮭魚青魚白肉魚類^上
 見等ニ次ク

魚商ノ愈盛ナル前兆ノ事

英國ニ於テ益漁獵ヲ盛ナラレ^ル 為ニ既ニ

一千八百五十六年ニ方リ四箇ノ合本會社ヲ設
 立セリ此會社ノ旨趣ハ汽船ヲ漁用ニ供シテ普
 ク諸海ニ漁獵ヲ及ボヤントスルニ在リ故ニ其
 社ヨリ同志ノ輩ヲ募ル檄文ヲ發シテ曰ク我英
 國ヲ富饒ナラシムルノ一端ハ速ニ漁獵ヲ盛大
 ニスルニアリト雖モ二百年来依然トシテ更ニ進
 歩ヲ加ヘズ然レモ當今國民漸繁殖スレバ人巧
 ヲ極メテ種々ノ良方法ヲ發明シ以テ大ニ食物
 ヲ得其直ヲ廉ニシテ普ク國民ノ需求ニ應ズヘ
 キ理ナリ然ルニ英國四邊ノ漁人等ハ魚類ニ富

△トヲ知レ_レ之ヲ捕ヘテ國民ノ食用ニ供スル
ト甚寡ナクシテ其直モ常ニ貴ク貴族富商ニ非
レバ之ヲ食スルト能ハズ是_レ我_レ一社ノ深ク遺憾
トスル所ナリ故ニ自國ノ漁獵ヲ行ナフニ當リ
テ其方法ヲ巧ニシ其装置ヲ大ニセバ必_ス魚類ヲ
得ルノ理ニシテ國民一般ニ貴賤貧富ノ別ナク
各々滋養物ヲ得ルニ至ルベシ原来漁獵ハ水業ナ
レバ之ニ漁力ヲ施ス片ハ其益極メテ多シ譬_ハ
漁用ノ帆船ヲ以テ達シ難キ澳所ト雖_モ漁力ヲ藉
ル片ハ速ニ到ルトヲ得テ大ニ魚類ヲ捕ヘ以テ

自國ノ人民ニ供スルヲ得ベシ又従前ノ如クナ
レバ海岸ノ漁人唯近海ニテ漁スルトヲ得レ_レ
近海ノ澳ハ必_ス時節ニ定限アルヲ以テ其捕ル所
亦寡ナシ故ニ其魚ヲ醃藏シテ他ニ運輸スルニ
至リテハ主トシテ龍_ノ魚ニアリ而_{シテ}其他ノ都府
ハ皆ニ其餘殘ヲ受クルノミ然_レ_レ_レ_レ漁力ヲ用井
ル片ハ海程ノ遠近ヲ論ゼズ何ノ處ト雖_モ常ニ其
魚ヲ行ナフカ故ニ日々其新鮮ナル魚ヲ以テ國
内ノ諸港ニ分輸シ諸港ヨリ鐵道ニ沿ヒテ内地
ノ諸都府ニ運輸ス

上文ニ記スル所ノ會社ノ内ニテ一社ノ旨趣ハ
愛爾蘭ノ諸海并ニ蘇格蘭ノ西海ニ漁獵ヲ殷盛
ナラシムルニ在リ實ニ蘇國ノ西海ハ魚類ニ富
ムヲ猶萬世無盡ノ金山ノ如クニシテ宇内ノ列
國一モ企テ及ブ所ニアラス加フルニ甚漁獵便
宜ノ地勢ナルベシ就中ウエストルニアイランド
ノ周圍ヲ以テ最上トス蓋其地勢ハ愛爾蘭ノ西
岸其他蘇愛ニ國ニテ漁獵ヲ行ナフ所ノ諸岸ト
異ナリテ到ル處凹凸ノ形ヲナシ且其近傍ニ洲
嶼多キヲ以テ數千里ノ長岸皆最漁獵ニ宜シ故

ニ年中一月モ漁時ノ絶ユルヲナク加フルニ如
何ナル氣候ト雖常ニ其漁ノ乏シキヲナシ是地
勢ノ然ラシムル所ナリドクトルアンドルソン
曰クカニテイル以西ヲ除クノ外ハ蘇國ノ西岸一
處モ暴風ノ為ニ港灣ニ歸來スルヲ能ハザルノ
難アルヲナシ

漁獵篇上終

清水世信 校